

山形県庄内エリアの観光ビッグデータ分析

2026年10月

庄内観光コンベンション協会

 荘内銀行



株式会社フィデア情報総研



株式会社日本政策投資銀行

協力



日本政策投資銀行グループ

DBJ デジタルソリューションズ

目次

第1章	本調査について		p.2
	1-1 本調査の背景		
	1-2 本調査の目的		
	1-3 庄内エリアについて		
第2章	日本人観光客のビッグデータ分析		p.7
	2-1 調査前提		
	2-2 主要観光地の属性・居住地分析		
	2-3 宿泊地分析		
	2-4 羽黒山五重塔来訪者の特徴		
	2-5 羽黒山五重塔来訪者の同時来訪地		
	2-6 羽黒山五重塔来訪者の前後立ち寄り分析		
第3章	公的統計を用いた庄内エリアに来訪するインバウンドの分析		p.25
	3-1 全国インバウンド来訪者推移と都道府県別訪問者数		
	3-2 国・地域別来訪者・宿泊者		
	3-3 インバウンド消費動向調査による山形県での旅行消費		
	3-4 宿泊統計からみた山形県を訪れるインバウンドの特徴		
第4章	庄内エリアを訪れるインバウンドの人流・国籍分析		p.30
	4-1 人流・国籍分析における分析ツールと分析前提		
	4-2 鶴岡市・酒田市への来訪者		
	4-3 鶴岡市訪者の他訪問先		
	4-4 酒田市来訪者の他訪問先		
第5章	おわりに		p.38
	Appendix		p.40

第1章 本調査について

1-1 本調査の背景

- 山形県は、従前より高付加価値旅行者の誘客に取り組んでおり、**総合的な施策を集中的に講じるモデル観光地として観光庁が選定する14地域のうちの1つに2024年9月に選出**されているほか、2025年10月にはアメリカの世界的な旅行メディアである「ナショナルジオグラフィック」が発表した「**The Best Place in the World to Travel to in 2026**」において**選出**されるなど、国内外からの関心が高まりつつある。
- DBJ東北支店では、2024年3月に公表した「山形県における観光振興のあり方についての提言」において、高付加価値・滞在型観光の推進による観光消費額の拡大や、観光振興戦略再構築の必要性について提言を行ったほか、2025年2月に「山形県山形市の観光ビッグデータ分析」を公表し、山形市を対象として観光客の属性や行動特性、周遊実態等について調査を実施した。
- 本調査は、その取組をさらに発展させるものとして、豊かな自然、食文化、歴史、精神文化を有する庄内エリアを対象に、**庄内観光コンベンション協会・庄内銀行、フィデア情報総研**とともに、観光ビッグデータ分析を実施するものである。

山形県における観光振興のあり方についての提言

～地域を豊かにする観光の実現に向けて～

2024年3月

 DBJ 株式会社日本政策投資銀行
東北支店

 株式会社 日本経済研究所
Japan Economic Research Institute Inc.
産業戦略本部 産業調査企画部

2024/3発行

山形県山形市の観光ビッグデータ分析

ー山形県山形市に來訪する外国人観光客の動向とビッグデータの活用についてー

2025年2月

 DBJ 株式会社日本政策投資銀行
東北支店

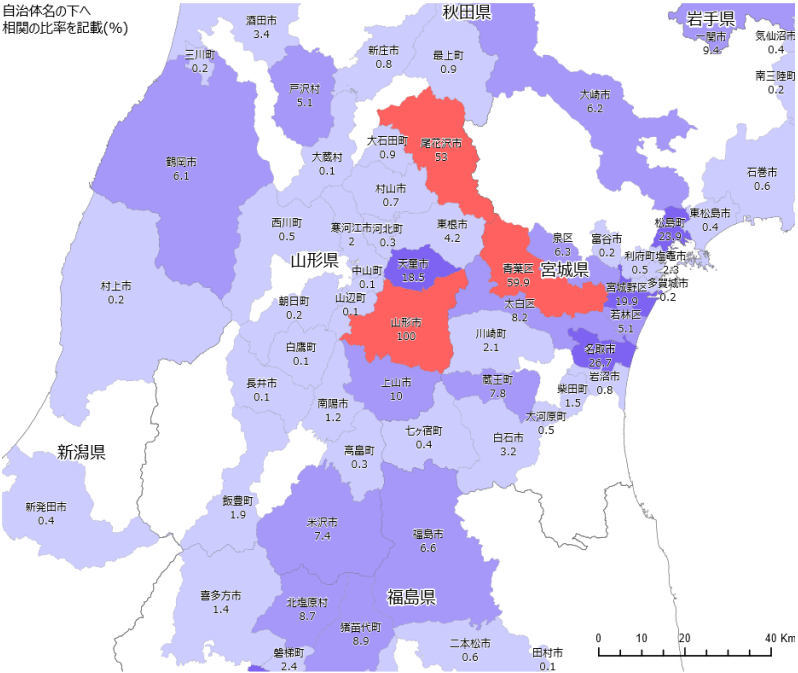
協力  DBJ デジタルソリューションズ

2025/2発行

1-2 本調査の目的（山形県山形市の観光ビッグデータ分析（2025.2）を踏まえて）

- 「山形県山形市の観光ビッグデータ分析」（2025年2月公表）では、主に山形県山形市を訪れた外国人観光客の人流データをもとに、旅行動態を定量データで明らかにし、事例の分析・比較や、ターゲットとする客層の選定、観光資源の再整理などを行うことで、より効果的かつ効率的にターゲットの嗜好を踏まえた観光商品の造成・提供が可能となることを示唆。
- 上記レポートの分析の一例としては、山形県山形市を訪問した訪日外国人の訪問先市区町村の相関比率のデータから、山形市が尾花沢市（銀山温泉等）、天童市（天童温泉等）、仙台市、松島町等、山形県内村山地域～宮城県を一つのエリアとして周遊する層が多いことや、東京都経由で来訪する層が相応に存在することが示された。
- 庄内エリアの中では、鶴岡市が比較的多く山形市と合わせて来訪されているものの、県内外の主要な市区町村と比べると低位であり、県内での周遊促進（庄内－村山間）の余地がある可能性が示されている。

山形市訪問者の他訪問先市区町村の相関比率（2023年6月1日～2024年5月31日）



順位	市区町村名	総計
1	宮城県 仙台市青葉区	59.5%
2	山形県 尾花沢市	53.7%
3	千葉県 成田市	30.6%
4	宮城県 名取市	26.8%
5	宮城県 松島町	23.1%
6	東京都 台東区	19.8%
7	宮城県 仙台市宮城野区	19.0%
8	東京都 渋谷区	18.5%
9	東京都 千代田区	18.2%
10	福島県 会津若松市	17.7%
11	山形県 天童市	17.0%
12	東京都 中央区	15.9%
13	秋田県 仙北市	15.8%
14	東京都 新宿区	14.7%
15	東京都 大田区	13.3%

順位	区町村名	総計
16	福島県 下郷町	12.3%
17	東京都 港区	11.7%
18	岩手県 花巻市	10.4%
19	青森県 青森市	10.1%
20	岩手県 盛岡市	9.0%
21	岩手県 一関市	8.9%
22	福島県 猪苗代町	8.8%
23	山形県 上山市	8.8%
24	青森県 十和田市	8.6%
25	福島県 北塩原村	8.5%
26	宮城県 仙台市太白区	7.4%
27	宮城県 蔵王町	7.2%
28	岩手県 平泉町	7.0%
29	山形県 米沢市	6.9%

1-2 本調査の目的

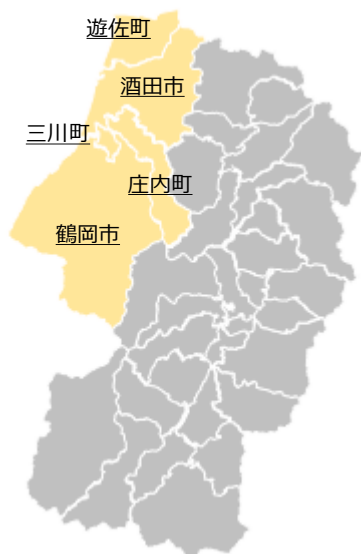
- 本調査では**庄内エリアにおける観光客の人流に関する実態を把握**することを目的として、ビッグデータを用いて分析を行う。
- 本調査では**日本人観光客、訪日外国人観光客それぞれにつき分析**を行い、現状での庄内エリアにおける観光客の行動特性、周遊実態等を把握するとともに、庄内エリアの観光の特徴につき考察する。
- 特に、庄内観光において遠方客の誘客に影響力が大きいと考えられる**羽黒山五重塔に着目**して、同地に訪問した観光客がどのような周辺観光地を訪問しているかといったデータから、観光客の動向について考察することで、エリア全体での観光振興および山形県全体の観光周遊の促進における可能性を探ることも目的とする。



1-3 庄内エリアについて

- 庄内エリアは山形県の北西部に位置し、2市3町（鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町）からなる。
- 西は日本海に面し、秋田県、山形県内陸部、新潟県とはそれぞれ鳥海山、出羽山地、朝日山地を境に接し、海・山・平野の全てを有することから、豊かな食文化も育まれている。
- また、月山、湯殿山、羽黒山からなる「出羽三山」は山岳信仰の聖地となっているほか、庄内藩の城下町として栄えた鶴岡や江戸時代に北前船の寄港地として発展した酒田など多様な文化が共存してきたエリアである。

庄内エリアの基本データと主な観光地



面積	2,405km ²
人口 (R7.10時点)	242千人（鶴岡市113千人、酒田市92千人、三川町7千人、庄内町18千人、遊佐町11千人）
山岳観光地	月山、湯殿山、鳥海山
温泉観光地	湯野浜温泉、あつみ温泉、湯田川温泉、由良温泉
祭/イベント	荘内大祭、赤川花火大会、酒田花火ショー 酒田まつり（山王まつり）、鶴岡天神まつり（化けものまつり）
道の駅	道の駅鳥海ふらっと、道の駅庄内みかわ、道の駅しょうない
その他観光地	山居倉庫、庄内観光物産館 東北エプソンアクアリウムかもすい（鶴岡市立加茂水族館、以下「かもすい」）



第2章 日本人観光客のビッグデータ分析

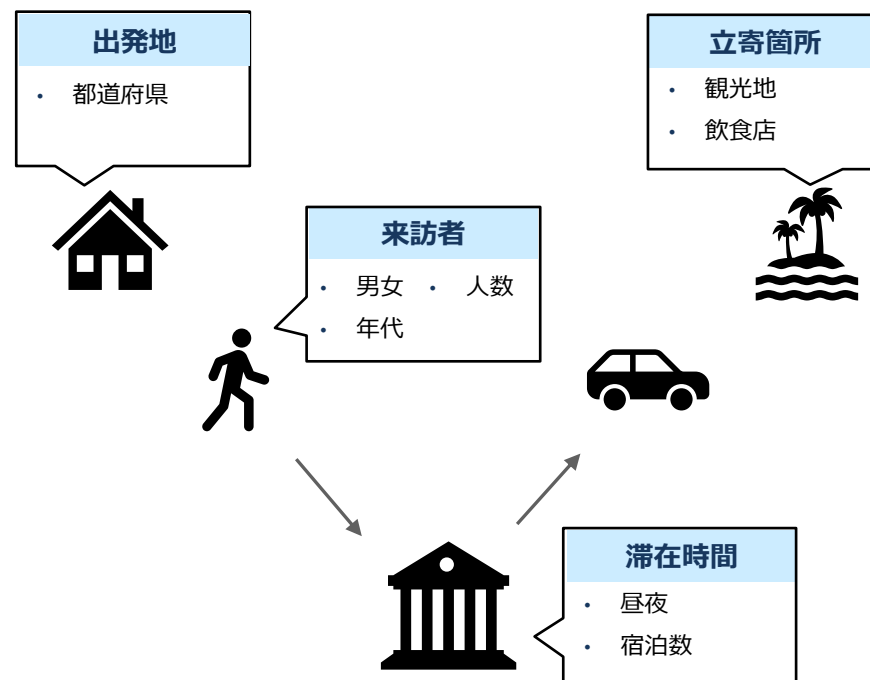
2-1 調査前提－①分析ツール

- 次ページ以降の日本人観光客を対象とした人流・属性分析では、主に「KDDI Location Analyzer日本人版」（以下、「KLA日本人版」という）を活用した。
- KLA日本人版は、auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計している。
- また、集計に際しては人流データの拡大推計を実施している。よって、本分析では、全てに「来訪者数」と記載しているが、正しくは「推計した来訪者数」であることに注意されたい。

KLAの特徴

- ✓ 大量のサンプルと、粒度の細かなデータ
 - 国内居住者の数百万人のau スマートフォンユーザーから個別同意を頂き最短2 分単位、最小10mメッシュ単位で位置情報を収集
- ✓ 鮮度の高いデータ
 - 2018 年 1 月から直近数日前までの全国分データを保持。鮮度の高いデータを用いて分析可能。
- ✓ 正確な性年代情報
 - スマートフォン契約時の本人確認済みの性年代を反映
- ✓ 拡大推計に対応
 - GPS位置データの取得時に応じた国勢調査データ を利用し、市区町村、町丁目単位で拡大推計を実施
- ✓ プライバシーの保護
 - プライバシーの保護： 個人を特定できないようにデータを整形。小地域（メッシュ・町丁目）・道路単位の性年代別滞在者が 10 人未満の場合、秘匿

分析結果イメージ



2-1 調査前提－②各調査の分析条件

- 本調査では大きく4つの分析を実施。各分析の概要は以下。

分析条件

	(2-2) 主要観光地点の属性・居住地分析	(2-3) 宿泊地分析
分析期間	2025年4月～2026年3月	2025年4月～2026年3月 (宿泊率計測時は5、8、10、1月の暦月内で実施)
対象地点	庄内エリアの10地点（次ページ参照）	鶴岡市
対象者	対象地点に15分以上滞在した者 (1月あたりの来訪頻度は3日までの者とする)	鶴岡市来訪者（居住地・勤務地が鶴岡市以外）のうち、 日中（5時～22時）に1時間以上連続で滞在した者
前提	・月ユニーク(※1)による来訪者数とする	・来訪者は日ユニーク(※2) ・来訪日の深夜時間帯（22時～5時）に最も長く滞在した市区町村を 宿泊地として人数をカウント（自身の居住地を除く）

(※1) 1ヶ月のうち同一人物の来訪回数のカウントは、当該月の来訪回数に関わらず1回までとする

(※2) 1ヶ月のうち同一人物による複数回の来訪は、日数毎にカウントされる

	(2-4、2-5) 羽黒山五重塔来訪者の居住地・同時周遊地分析	(2-6) 前後立ち寄り分析
分析期間	2025年5、8、10月、2026年1月	2025年8月/2026年1月
対象地点	羽黒山五重塔	羽黒山五重塔
対象者	羽黒山五重塔に15分以上滞在した遠方観光客(※3)	羽黒山五重塔に15分以上滞在した山形県外からの来訪者
前提	・羽黒山五重塔と各地点との周遊率についてはAgoop日本人定型分析レ ポート(※4)を利用 ・周遊率に（2-2）で分析した来訪者数を乗じることで推定同時利用者数を 算出	・対象者が羽黒山五重塔来訪の前後3時間に15分以上滞在した125mメッ シュを集計・着色 ・図中の青線は、滞在人数が多かった上位10のメッシュを繋いでいる

(※3) 居住地から片道80km以上の者

(※4) 国内提携のスマートフォンアプリのうち、承諾を得たユーザからGPS位置情報を収集し拡大推計（国勢調査より）。アプリをインストールしたユーザから取得しているため、通信キャリアに依存しない

2-1 調査前提—③対象地点

- 分析にあたっては鶴岡市、酒田市、三川町・庄内町・遊佐町・戸沢村から以下の10地点を対象とした。
- なおツールの仕様上、対象観光地の情報がとれなかった地点については、便宜上備考記載の地点を参照している。

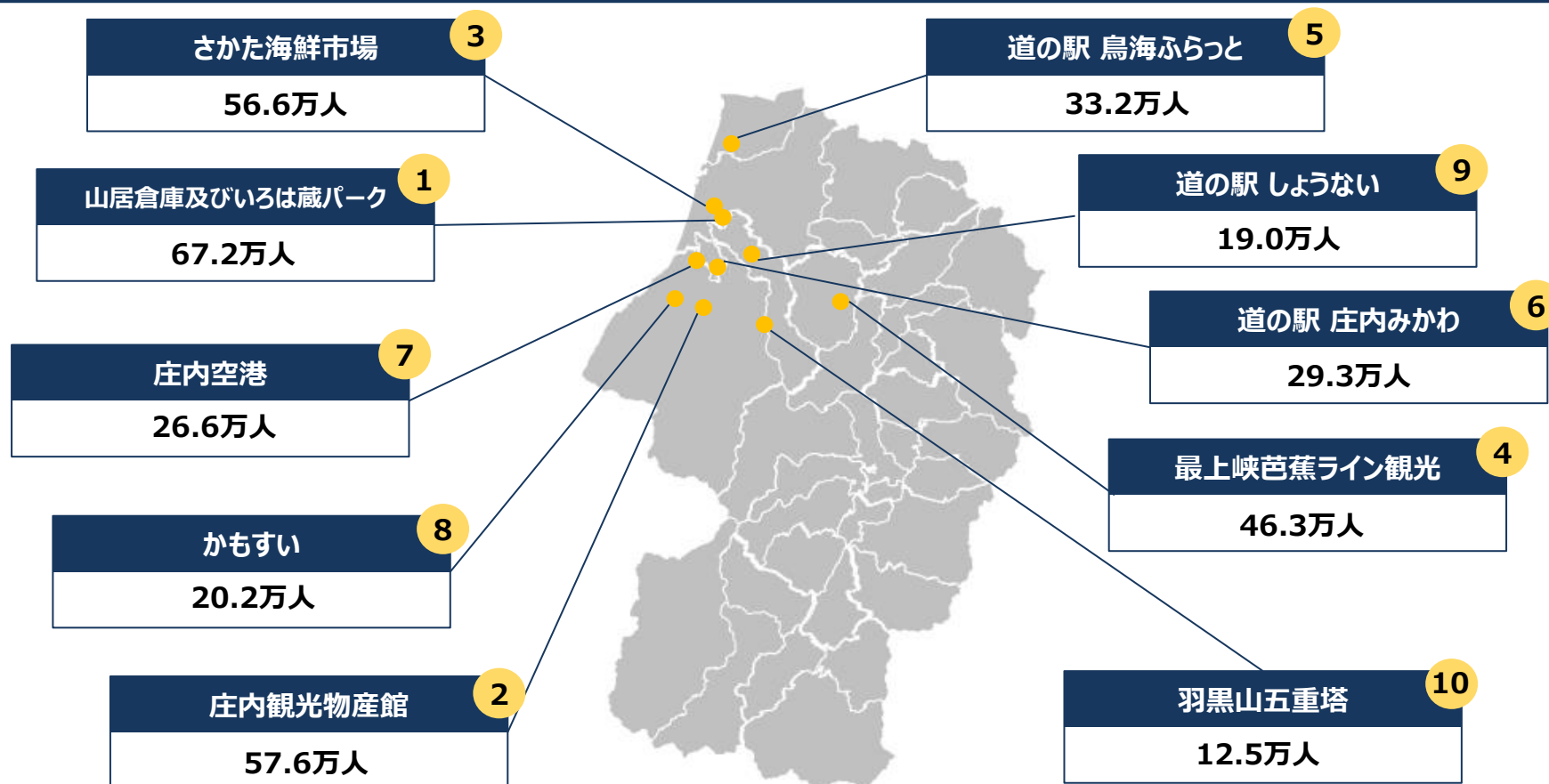
分析対象地点

市町村	観光地点名		参照地点(空白の場合は観光地点と同様)	庄内エリアマップ
鶴岡市	A	かもすい		
	B	羽黒山五重塔	出羽三山神社(いでは文化記念館含む)	
	C	庄内観光物産館		
酒田市	D	庄内空港	庄内空港付近 (庄内夕日の丘オートキャンプ場含む)	
	E	さかた海鮮市場	さかた海鮮市場周辺	
	F	山居倉庫及びいろは蔵パーク		
東田川郡三川町	G	道の駅 庄内みかわ		
東田川郡庄内町	H	道の駅 しょうない		
飽海郡遊佐町	I	道の駅 鳥海ふらっと		
最上郡戸沢村	J	最上峡芭蕉ライン観光	山形県最上郡戸沢村古口86-1	

2-2 主要観光地の属性・居住地分析－①来訪者数

- 庄内エリアの主要観光地の来訪者数をみると、最多来訪者は「①山居倉庫及びいろは蔵パーク」の67.2万人であり、次いで「②庄内観光物産館」（57.6万人）、「③さかた海鮮市場」（56.6万人）となっている。①～③の観光地への来訪者数は本データにおける庄内空港の来訪者数を大きく上回っており、**県内外から自動車、鉄道、バス等で来訪している層が相応にいたことが推察される。**

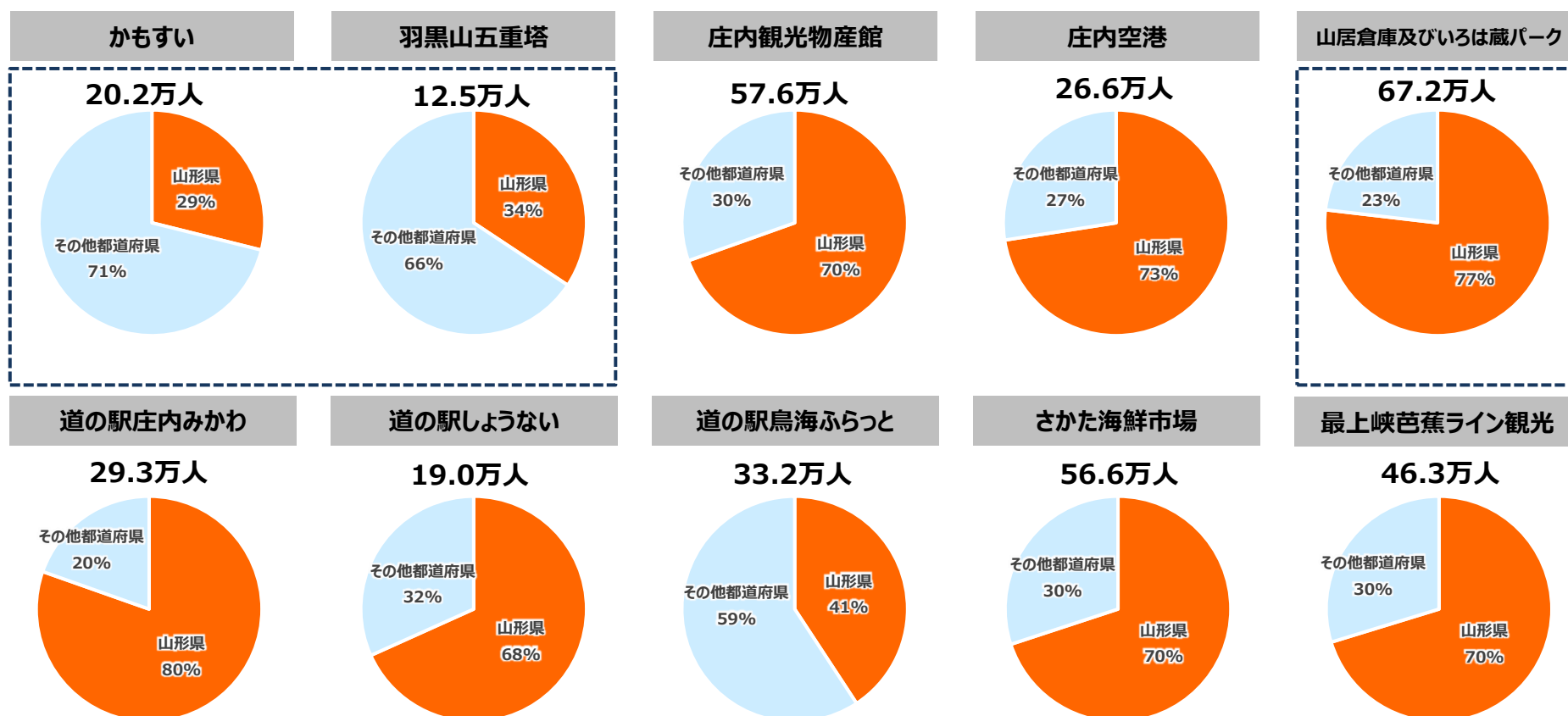
主要観光スポットへの来訪者数（2025年度）



2-2 主要観光地の属性・居住地分析－②県内外比率

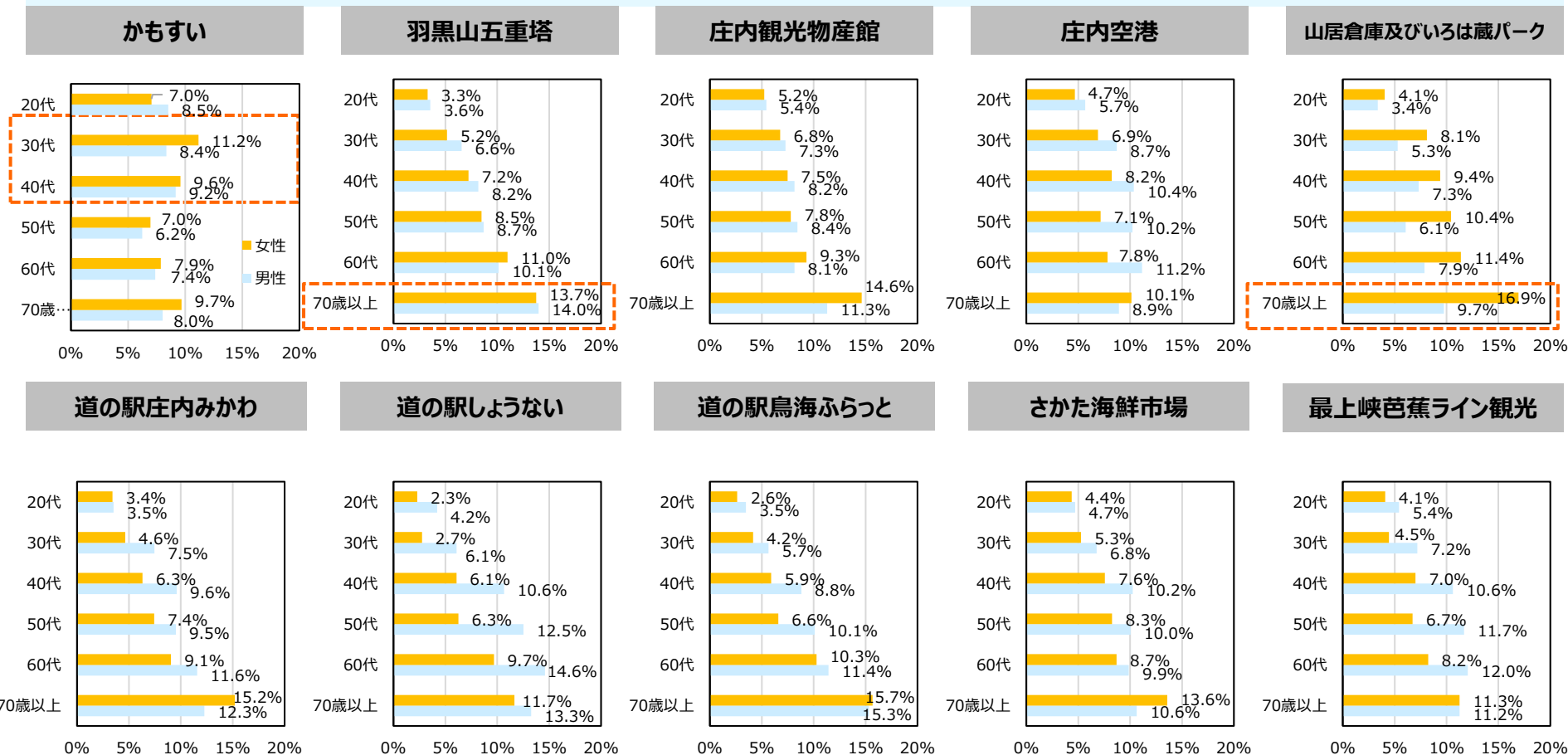
- 主要観光地来訪者の居住地をみると、**かもすいや羽黒山五重塔では、6～7割が県外来訪者となっている。**
- 一方、来訪者数の多かった山居倉庫や道の駅といった**観光地においては県内客の比率が高い傾向が見られ、庄内の観光地における県内観光客の存在感の大きさが表れている。**

主要観光スポット来訪者の県内外比率（2025年度）



2-2 主要観光地の属性・居住地分析－③性年代分析

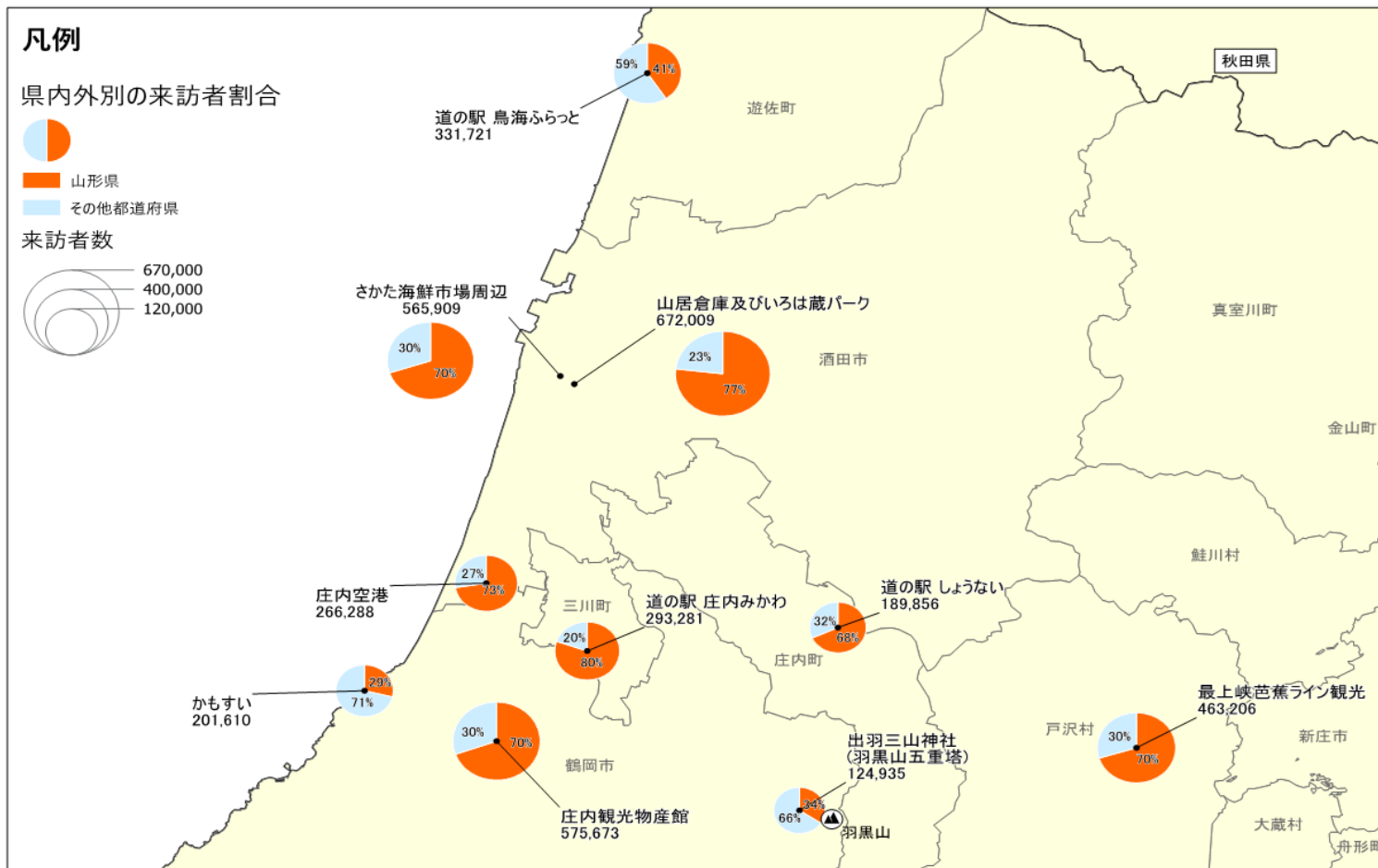
- 各観光地の来訪者を性年代別でみると、**全体的に60歳代以上が多く、羽黒山五重塔、山居倉庫等でその傾向が顕著。**
- 一方、かもすいは比較的来訪者の年代、性別が分散しており、若年層や家族連れでの来訪が相応にあることが伺える。
- 性別では、羽黒山五重塔が男女比率は概ね同水準であるのに対し、山居倉庫等では女性来訪者の比率が高い一方、最上峡芭蕉ライン観光では比較的男性来訪者の比率が高いなど、観光地によって違いが見られる。



(参考) 庄内エリアの来訪者数分布と県内外の来訪者割合

- 主要観光スポットの来訪者数と、県内外来訪者割合を地図上に示した。

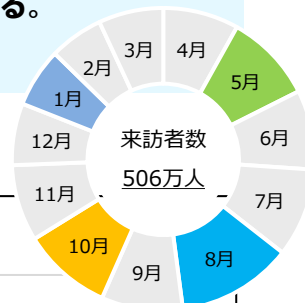
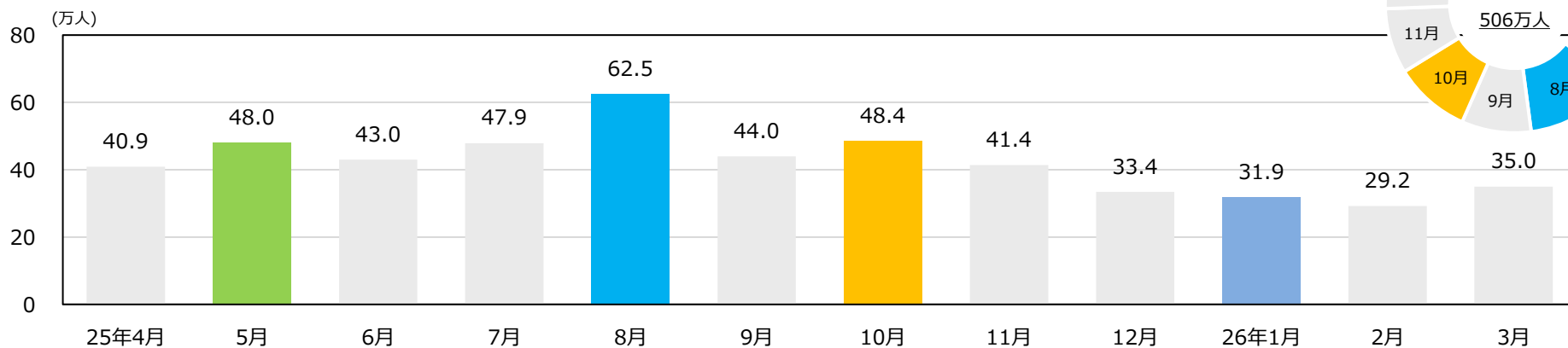
庄内エリア 来訪者マップ



2-3 宿泊地分析－①鶴岡市の季節別宿泊率

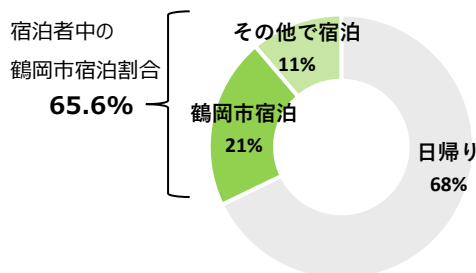
- 鶴岡市への来訪者数は、年間506万人。月別では8月が来訪者数のピークであり、10月、5月と続く。
- 季節ごとの宿泊率をみると、**時期を問わず6～7割が日帰り客であり、山形県内や近隣県からの来訪者が大きいと考えられる。**
- 春～秋では宿泊者のうち鶴岡市に宿泊する割合は概ね7割弱であるが、**冬季には8割近くが鶴岡市に宿泊している。**

月別来訪者数

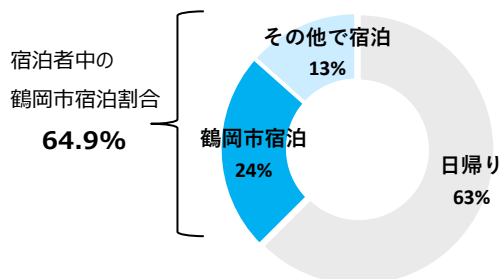


季節別宿泊率

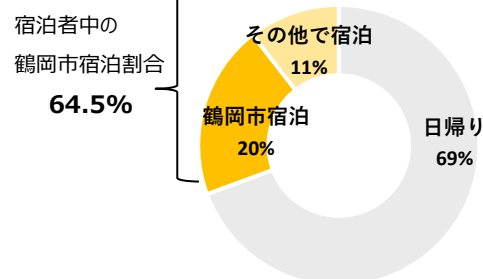
5月



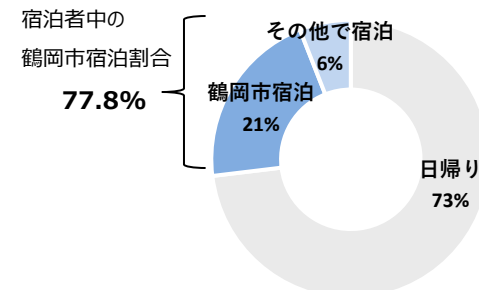
8月



10月

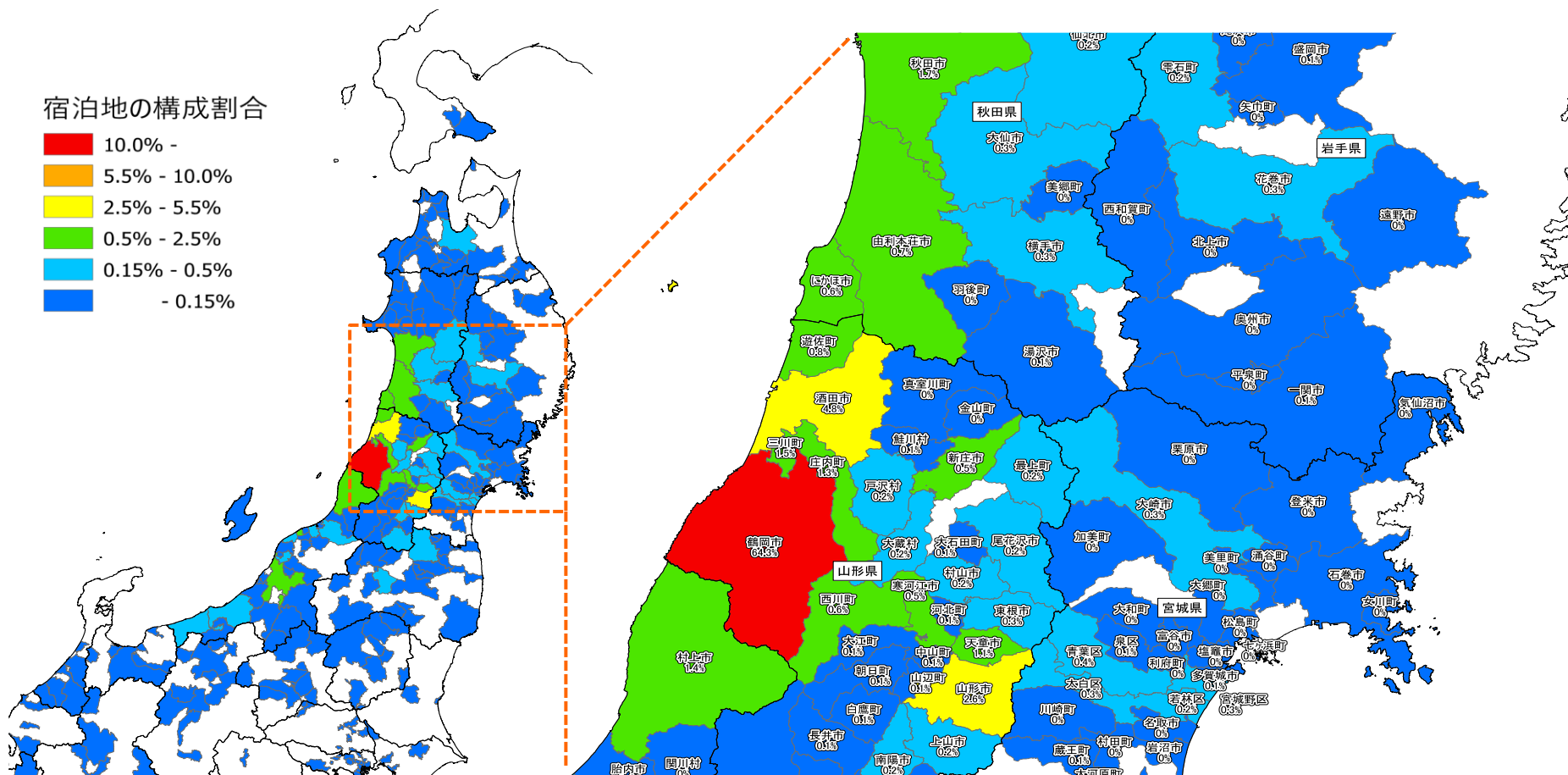


1月



2-3 宿泊地分析ー②鶴岡市来訪者の宿泊地マップ°

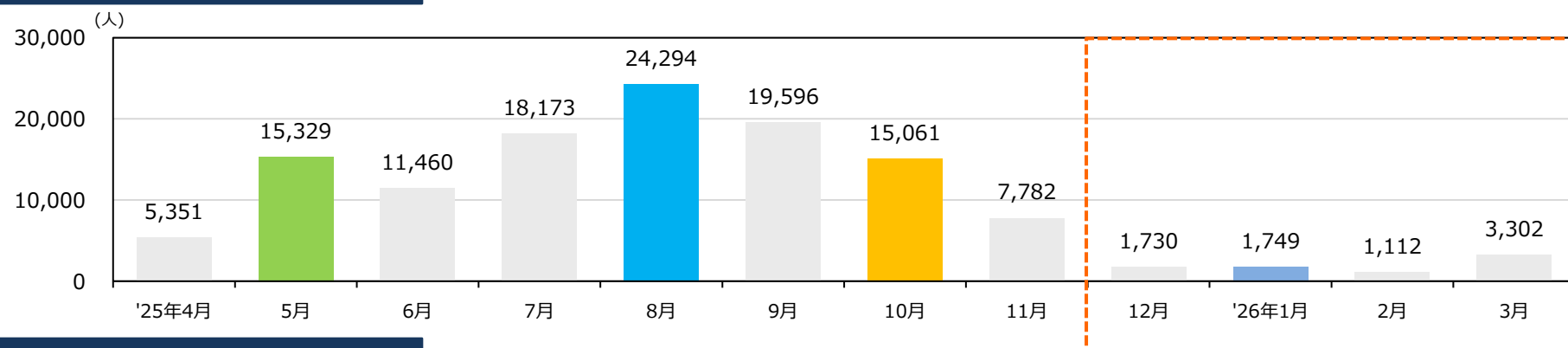
- 8月に鶴岡市に来訪した人（日帰り客を除く）の宿泊地をみると、6割が鶴岡市自体に宿泊。
- 他地点としては、近隣の酒田市や山形市への宿泊が多いほか、秋田県を含む周辺の日本海沿いの市町村への宿泊もみられ、**夏季においては鶴岡市来訪者の行動範囲は広がる傾向があるものと推測される。**



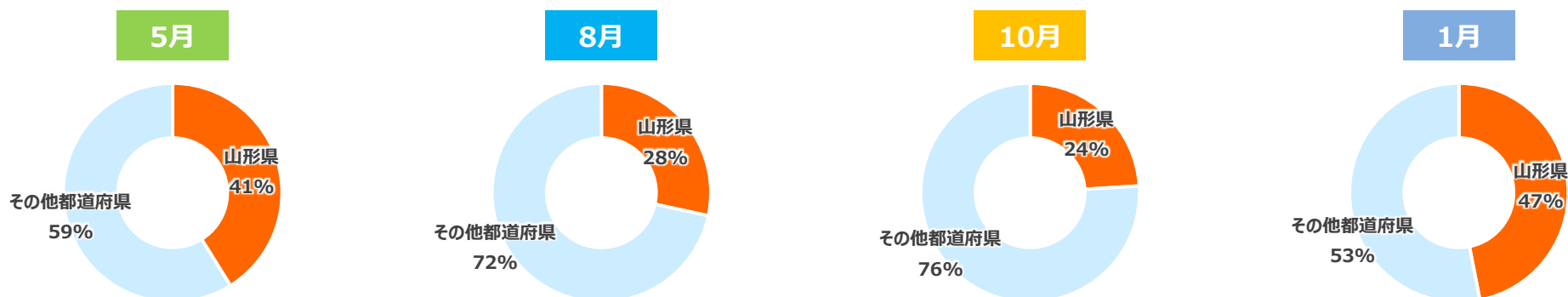
2-4 羽黒山五重塔来訪者の特徴

- 庄内の代表的観光地である羽黒山五重塔の月ごとの来訪者数をみると、8月をピークとした夏の時期と5月、紅葉シーズンである10月に来訪者が多い。特に8月及び10月は、他の時期と比べて特に県外からの来訪割合が高く、全体の7割を超えている。
- 冬の時期の来訪者数は、ピーク時である8月の15%以下にまで落ち込んでいる。また他の時期と比べて県内からの来訪者が多く、**県外からの来訪者を中心とする冬季の誘客が課題**となっている。

月別来訪者数（年間12.5万人）



季節別県内外来訪者割合



2-5 羽黒山五重塔来訪者の同時来訪地

- 羽黒山五重塔に来訪する遠方観光客は、両月ともに山頂にある出羽三山神社（羽黒山）の周遊率がトップとなっている。
- 月山花笠ラインの同時来訪率が他の庄内エリア内の地点と比べても著しく高水準となっている点からは、**山形・仙台エリアとの繋がりが強く示される結果となっており、遠方観光客が庄内エリアに限らず広域で周遊している傾向を示している。**
- かもすいに関しては相応の結びつきが認められるものの、内陸の銀山温泉や天童温泉と比べても庄内エリアの温泉地の同時来訪率が低く、庄内エリアは主要観光地がスポット的に観光客を集める**宿泊・域内消費への転換余地の大きい観光エリア**となっていることが伺える。

8月

	都道府県	市区町村	観光地	同時来訪率(%)
1	山形県	鶴岡市	出羽三山神社（羽黒山）	67.5
2	山形県	鶴岡市	月山花笠ライン	50.5
3	山形県	鶴岡市	庄内観光物産館付近	19.6
4	山形県	鶴岡市	かもすい	18.2
5	山形県	鶴岡市	J R 鶴岡駅	13.3
6	山形県	鶴岡市	ホテルルートイン鶴岡インター付近	13.2
7	山形県	最上郡戸沢村	最上峡	12.4
8	山形県	鶴岡市	道の駅 あつみ	12.3
9	山形県	山形市	山形駅東口周辺	10.6
10	山形県	山形市	山寺（立石寺）	10.0
11	山形県	山形市	宝珠山 立石寺	9.4
12	山形県	山形市	J R 山形駅	9.1
13	山形県	天童市	天童温泉	9.1
14	山形県	酒田市	山居倉庫「酒田夢の倶楽」 (酒田市観光物産館)	8.9
15	山形県	尾花沢市	銀山温泉	8.5
16	山形県	鶴岡市	鶴岡公園	8.5
17	山形県	鶴岡市	湯野浜海水浴場	8.3
18	山形県	東田川郡三川町	庄内空港/イオンモール三川付近	7.8
19	山形県	鶴岡市	湯野浜温泉	7.5
20	山形県	上山市	蔵王エコーライン	7.2

10月

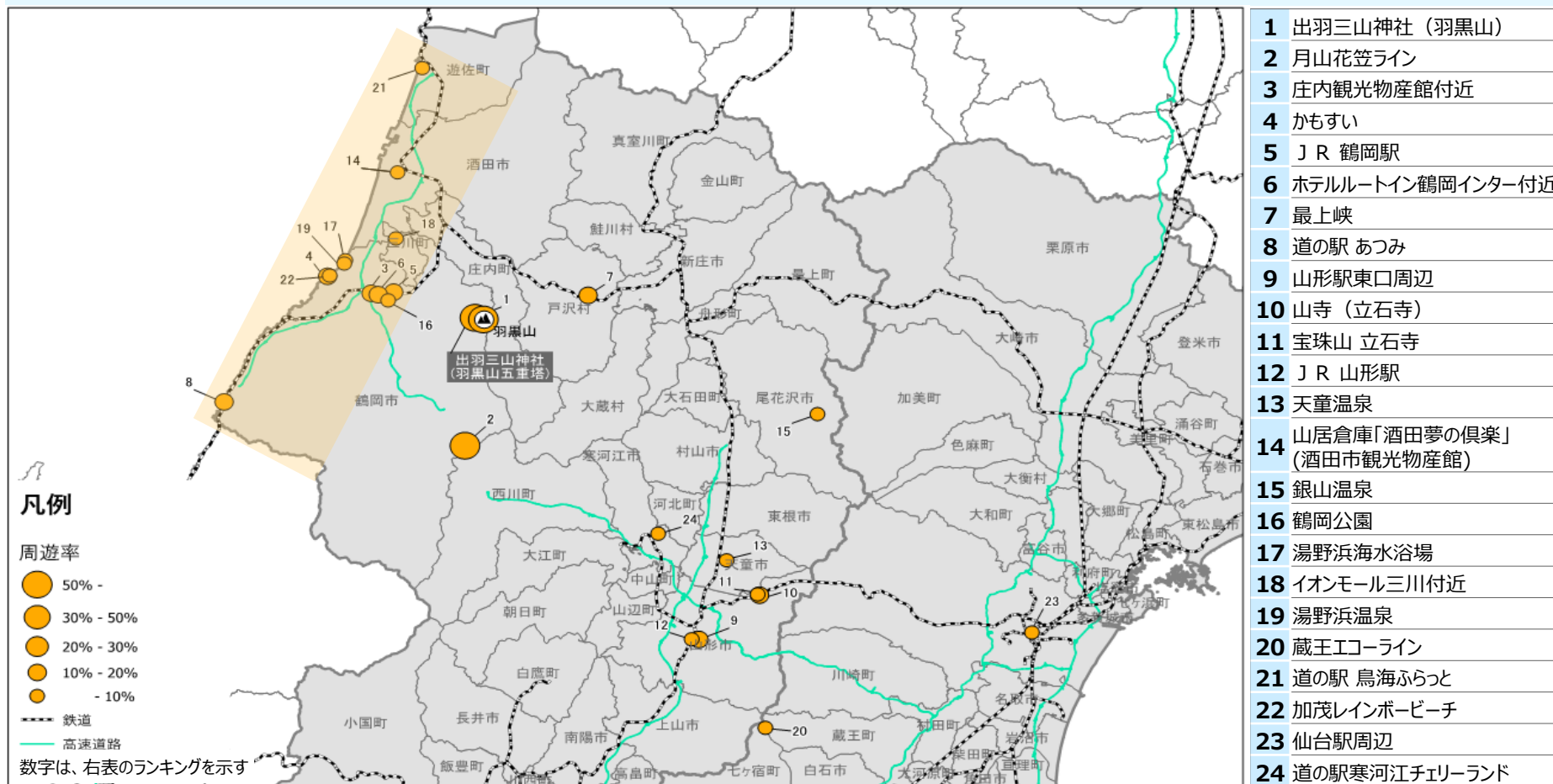
	都道府県	市区町村	観光地	同時来訪率(%)
1	山形県	鶴岡市	出羽三山神社（羽黒山）	65.3
2	山形県	鶴岡市	月山花笠ライン	47.8
3	山形県	鶴岡市	かもすい	25.3
4	山形県	鶴岡市	庄内観光物産館付近	16.6
5	山形県	鶴岡市	J R 鶴岡駅	15.0
6	山形県	尾花沢市	銀山温泉	13.8
7	山形県	天童市	天童温泉	13.1
8	山形県	山形市	山寺（立石寺）	11.8
9	山形県	山形市	山形駅東口周辺	11.4
10	山形県	山形市	宝珠山 立石寺	11.3
11	山形県	酒田市	山居倉庫「酒田夢の倶楽」(酒田市観光物産館)	11.3
12	山形県	鶴岡市	ホテルルートイン鶴岡インター付近	10.2
13	山形県	鶴岡市	鶴岡公園	10.0
14	山形県	山形市	J R 山形駅	10.0
15	山形県	鶴岡市	道の駅 あつみ	9.3
16	山形県	最上郡戸沢村	最上峡	9.3
17	山形県	上山市	蔵王エコーライン	9.1
18	宮城県	仙台市青葉区	仙台駅周辺	8.0
19	山形県	飽海郡遊佐町	道の駅 鳥海ふらっと	7.8
20	宮城県	仙台市青葉区	仙台駅西	7.2

「Agoop 国内観光客データ」よりDBJ作成

<同時周遊率の目安> 15%超：強い関連性、10%前後：平均的、5%未満：関連性は弱い

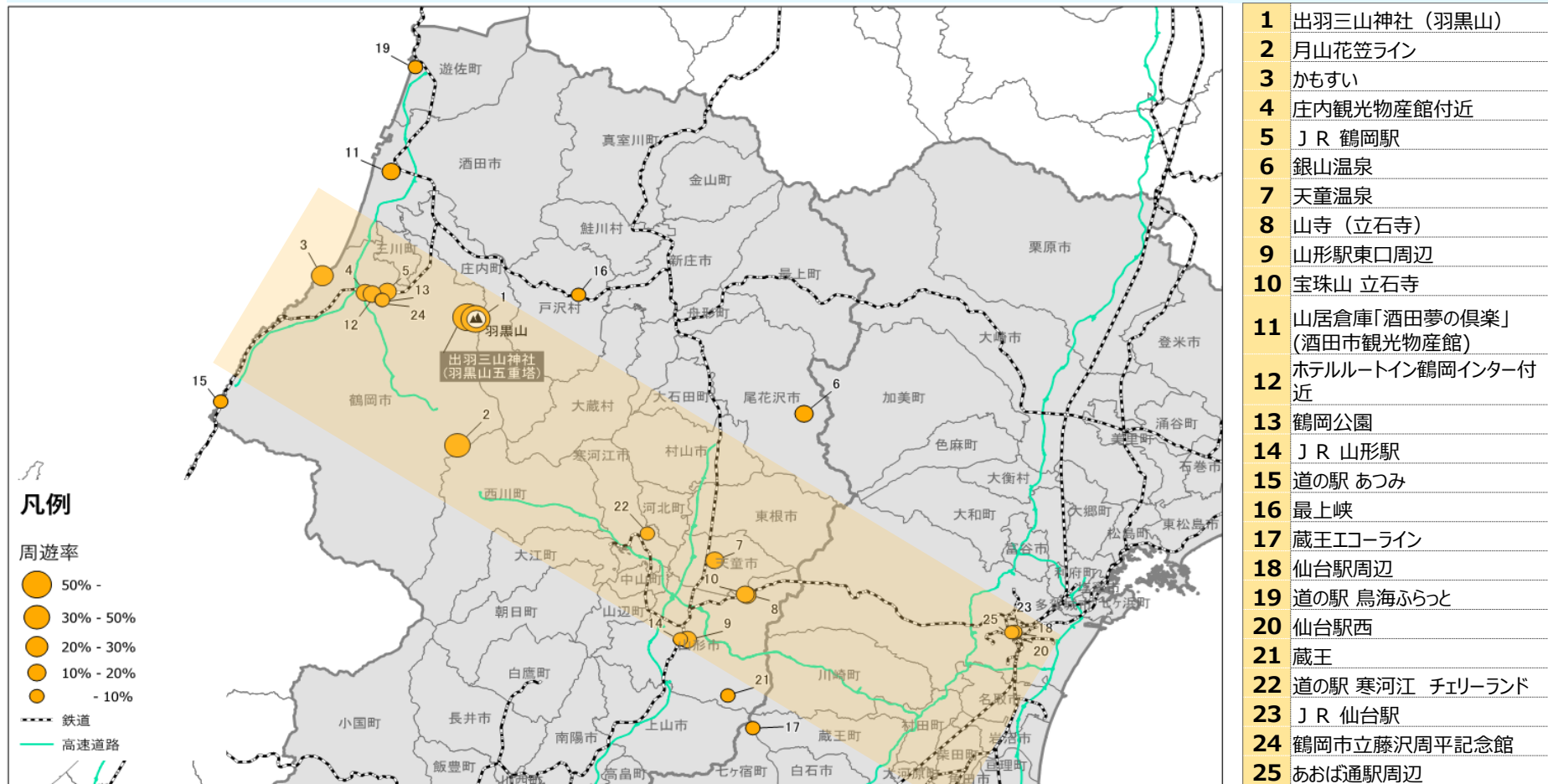
(参考) 羽黒山五重塔来訪者の周遊地マップー2025年8月

- 月山花笠ラインの同時来訪率は8月、10月ともに高く、仙台、山形エリアからの導線の強さが推測される。一方、10月のデータと比較すると8月は庄内空港周辺の周遊率が高くなっており、帰省客も含めて空路で直接庄内へ入る来訪者が多いことが示唆されている。
- 2025年8月の周遊地を見るに湯野浜海水浴場、加茂レインボービーチ等とともに湯野浜温泉、あつみ温泉周辺などへの周遊が見られ、海水浴や日本海沿岸の観光資源が夏季における庄内エリア内の周遊を誘引している可能性が考えられる。



(参考) 羽黒山五重塔来訪者の周遊地マップー10月

- 2025年10月の周遊地は、8月と比較して山寺、銀山温泉、天童温泉など内陸の観光地との同時往訪率が高く出ている一方、庄内エリア内日本海沿岸のスポットへの同時往訪率がかもすいを除き低位となっている。
- また8月と比べ仙台駅周辺で同時往訪率上位のスポットが多くなっており、秋季における仙台-山形（村山）-羽黒山といった導線が見られる一方、庄内エリア内の周遊度合は夏季と比べ低下していると考えられ、宿泊や域内周遊への転換余地が大きい観光エリアという面が強く表れている。



2-6 羽黒山五重塔来訪者の前後立ち寄り分析ー①全体図

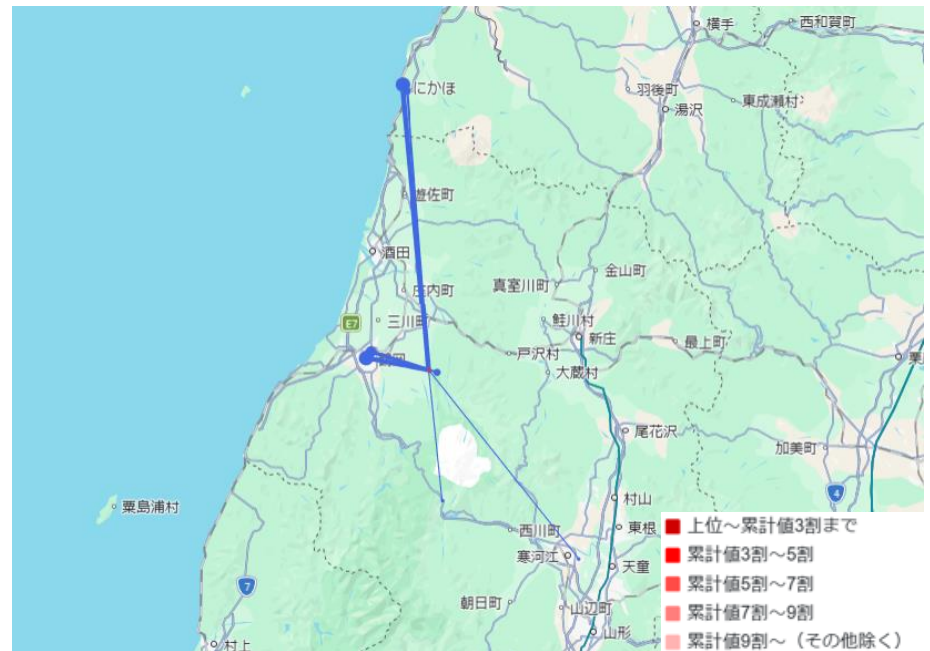
- 羽黒山五重塔来訪者の来訪前後3時間の滞在履歴を把握した（図中の青線は滞在人数の多い上位10メッシュを結んでいる）。
- 8月は広範囲にわたって周遊されており、最上峡芭蕉ライン観光、月山、湯殿山等**バランスよく移動と滞在の軌跡が取れている**。
- **1月は8月と比較して移動先が限定**されており、人流も少なく、羽黒山五重塔の周辺地域でコンパクトに周遊している傾向がみられる。
- 次頁からはエリアごとに細かい滞在履歴をみていく。

滞在人数上位10メッシュ概観比較

8月



1月

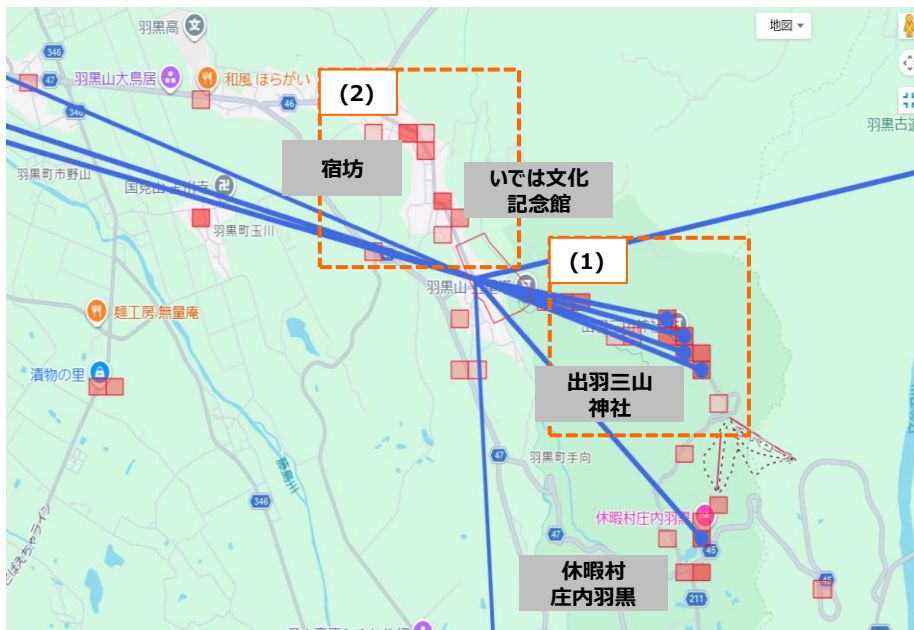


2-6 羽黒山五重塔来訪者の前後立ち寄り分析－②五重塔周辺

- 8月の羽黒山五重塔周辺をみると、**多くの人が羽黒山の山頂まで向かっている**ことが示されている(1)。
- また休暇村や宿坊が立ち並ぶエリアへの滞在もみられる。羽黒山では例年8月から9月にかけて山伏修行体験や宿坊による修行などが行われており、**観光に加えて修行を目的とした来訪も多くあると考えられる(2)。**
- 1月は山頂を含め、羽黒山五重塔周辺での周遊がほとんど見られず、五重塔の観光後に周辺を訪問せずに次の目的地に向かっている観光客が相応にいたことが示されている。

五重塔周辺マップ

8月



1月

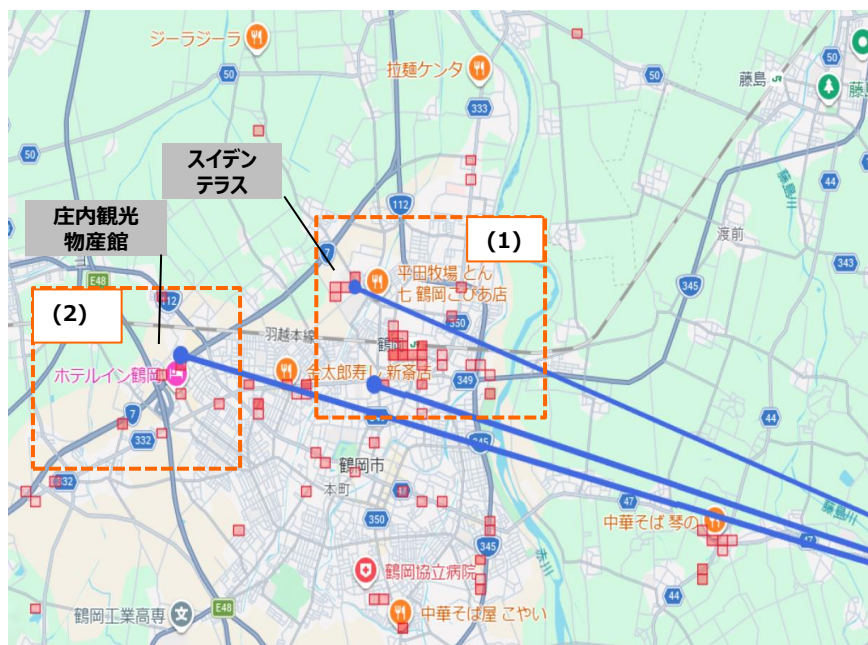


2-6 羽黒山五重塔来訪者の前後立ち寄り分析ー③鶴岡駅周辺

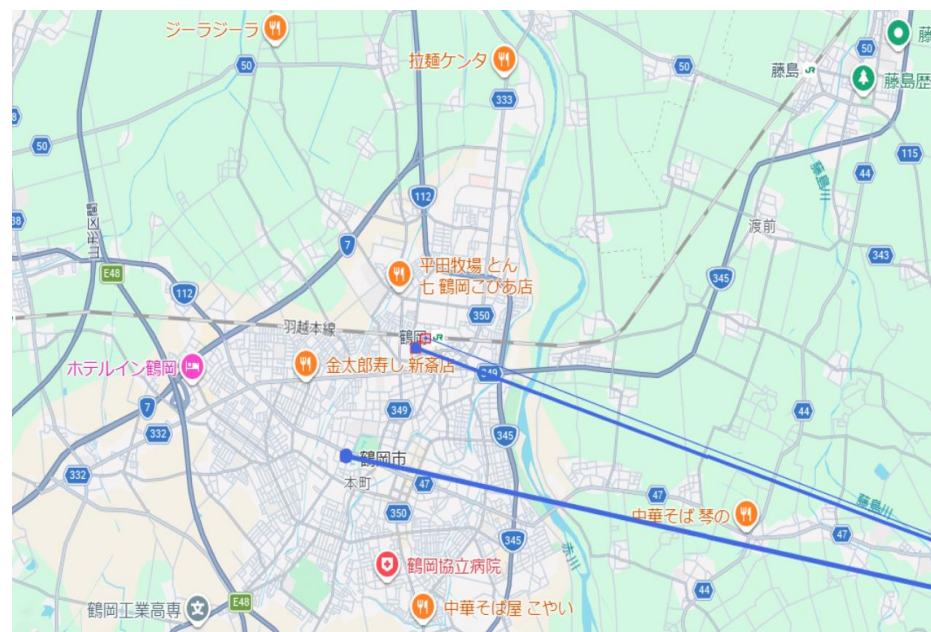
- 8月の鶴岡駅周辺をみると、駅南側の飲食店などへの滞在が多くみられる。また駅北側のスイデンテラス周辺にも滞在履歴が多く、**著名な宿泊施設が目的地化している**ことも推察される(1)。一方、大塚町付近のビジネスホテル（ホテルルートイン鶴岡インター）近辺にも滞在履歴がみられ、**庄内エリアの観光の拠点として一定ビジネスホテルが選ばれている可能性**が考えられる(2)。
- 8月は市内に滞在履歴が点在しているが、それらの近隣には著名な飲食店が立地していることが多く、観光客が地元の飲食店に足を運んでいる可能性が示唆されている。庄内エリアは「食の都庄内」としてガストロノミーツーリズムを促進しており、庄内エリアに根差した豊かな飲食店が多くみられる。本調査の分析からも地域飲食店への立寄りが一定程度確認されており、食文化が宿泊や滞在時間の延長につながる可能性が考えられる。
- 一方で1月についてはそうした傾向が見られず、季節により大きな違いが表れている。

鶴岡駅周辺マップ

8月



1月



小まとめ～日本人観光客のビッグデータ分析

<日本人観光客の特徴 ～域外誘客力は確認されたが、宿泊・消費への転換が課題～>

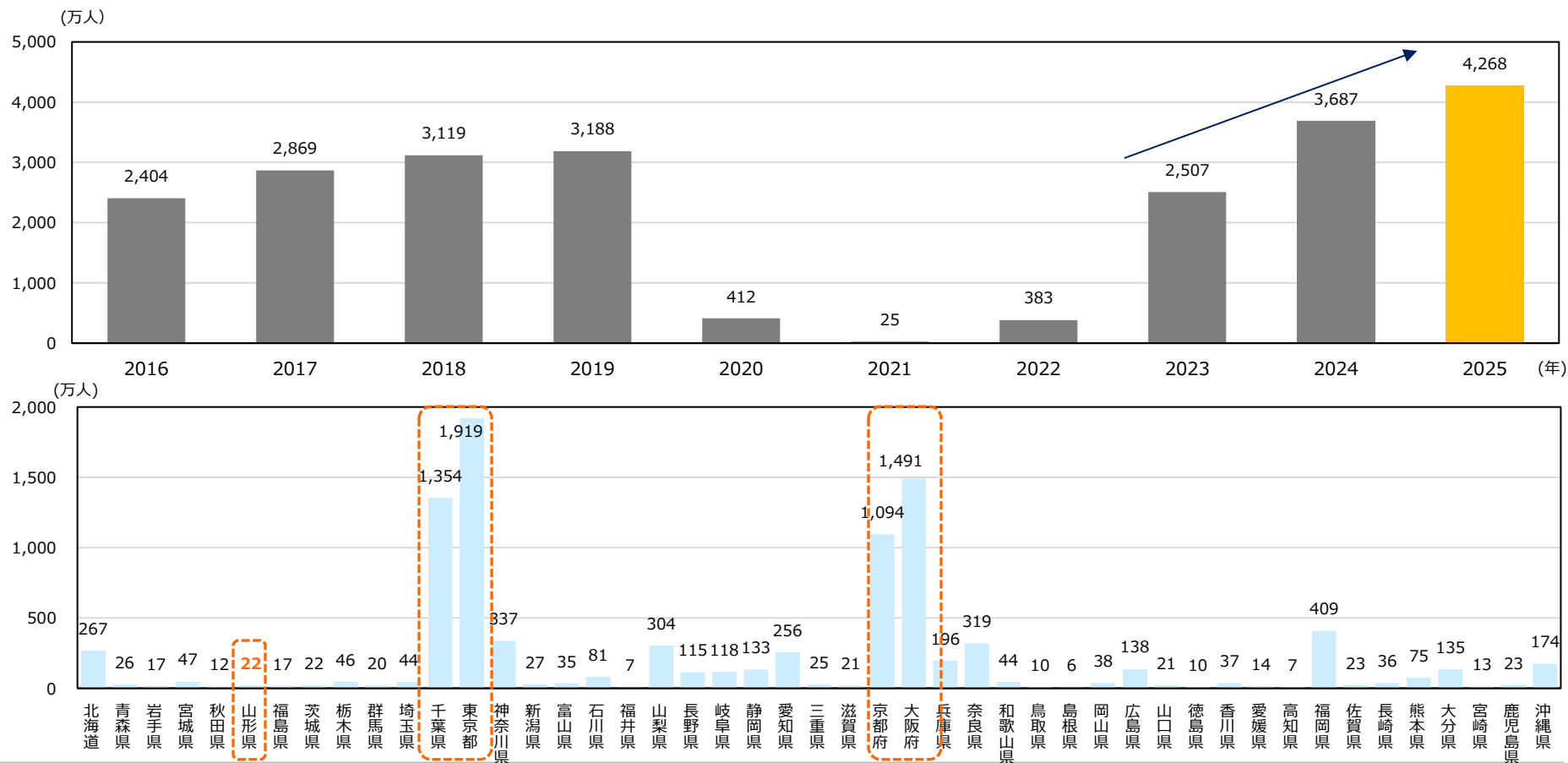
- 庄内エリアの日本人観光客は、山居倉庫及びいろは蔵パーク、庄内観光物産館、さかた海鮮市場などに多く訪れている一方、**来訪者構成を見ると県内客の割合が高く、近隣地域からの日帰り需要に支えられている構造が確認された。**
- また、本分析で対象とした観光資源には、羽黒山五重塔やかもすいのように観光客が目的地として訪れる施設と、庄内観光物産館や道の駅のように移動途中の立ち寄り拠点として利用される施設が含まれている。前者は広域からの誘客を担う一方、後者は地域内周遊や消費を支える役割を担っており、それぞれ異なる機能を有している点に留意が必要である。
- **かもすいや羽黒山五重塔は県外来訪者比率が高く、庄内地域を代表する観光資源として広域からの集客に寄与していることがうかがえる。**また、鶴岡市来訪者の6～7割は日帰り客であり、**羽黒山五重塔来訪者の周遊先を見ても、かもすいとの結びつきは一定程度認められるものの、庄内エリア内の温泉地との周遊率は高くなく、银山温泉や天童温泉など内陸部との周遊が多くみられた。**
- これは庄内の観光地が一定の誘客力を有する一方、**来訪者を宿泊や域内周遊、地域内消費へ十分につなげられていない可能性**を示唆している。こうした点をふまえると、羽黒山五重塔やかもすいを入口として、「食の都庄内」「温泉」「酒田・鶴岡の歴史文化」を組み合わせた宿泊型の商品の造成は、来訪者の周遊・滞在促進に資する可能性がある。
- 特に観光客の往訪履歴からは地元で評価の高い飲食店への立ち寄りも確認されており、宿泊施設と地域飲食店が連携し、庄内の食文化を活用した滞在型観光商品の造成や、季節限定コンテンツの造成を通じて、滞在時間と観光消費額の拡大を図ることが重要と考えられる。
- さらに、冬季は観光客数や周遊範囲が大きく縮小していることから、季節変動の平準化を図る観点から冬季コンテンツの充実や二次交通を含む受入環境の強化を通じた需要創出も重要な課題と考えられる。

第3章 公的統計を用いた庄内エリアに来訪する外国人観光客の分析

3-1 全国インバウンド来訪者推移と都道府県別訪問者数

- コロナ禍後、インバウンドの年間来客数は増加を続け、2025年には4,268万人と過去最高を記録している。
- 都道府県別のインバウンド訪問者数をみると、東京都、大阪府、千葉県が上位を占めており、山形県は、訪問者数22万人と東京都の約1%の規模となっている。

訪日外客数の推移（上）と2024年度の都道府県別インバウンド訪問者数（下）



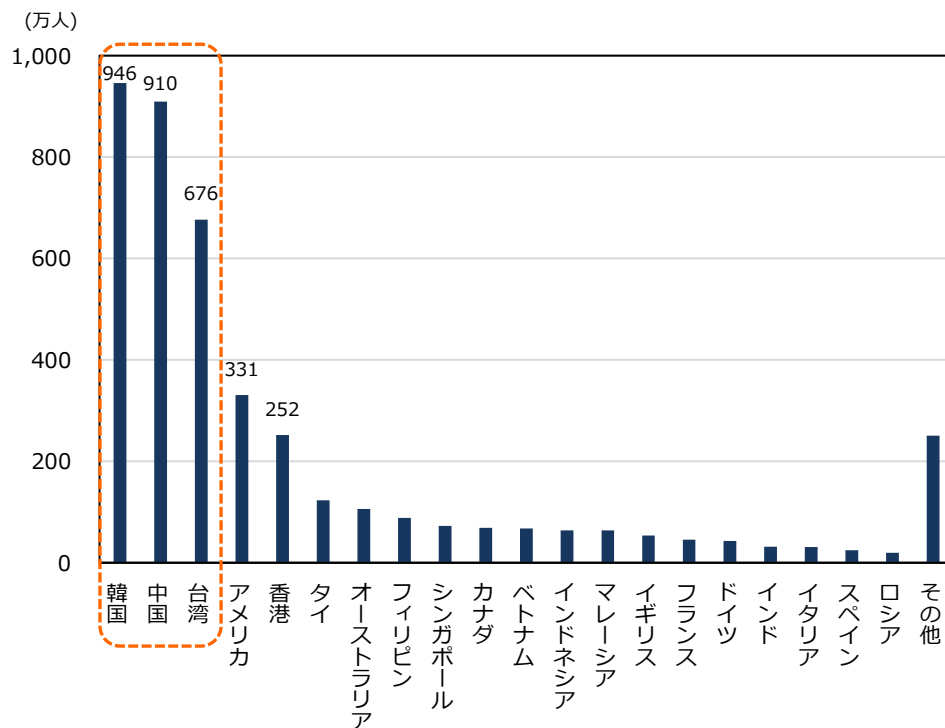
（上図）「日本政府観光客（JNTO）」訪日外客数（総数）よりDBJ作成

（下図）観光庁「インバウンド消費動向調査」個票データよりDBJ作成

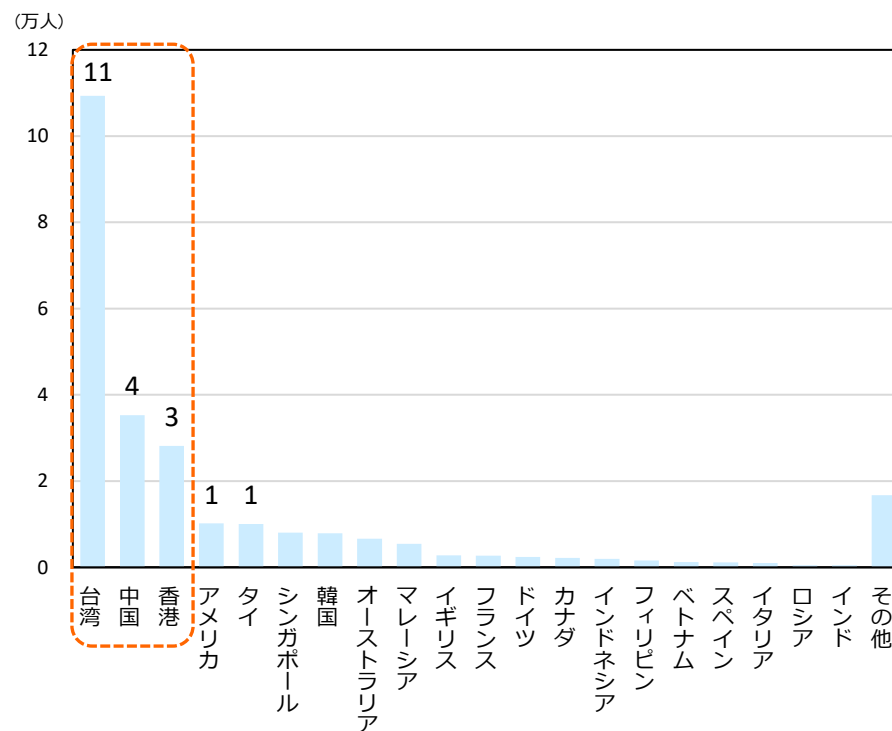
3-2 国・地域別来訪者・宿泊者

- 国・地域別の来訪者数をみると全国では韓国、中国、台湾からの来訪者が多くっており、全体の約60%を占めている。
- 山形県においても上位3か国・地域の顔ぶれは変わらないものの、台湾からの来訪者が他国・地域と比較しても突出して多い。
- 庄内空港からは台湾のチャーター便が定期的に就航しているが、台湾では雪が珍しいこともあり、スキーや樹氷等が楽しめる山形県への需要が高いと考えられる。

2025年度国・地域別訪日外客数



2025年度（※）国・地域別山形県宿泊者数



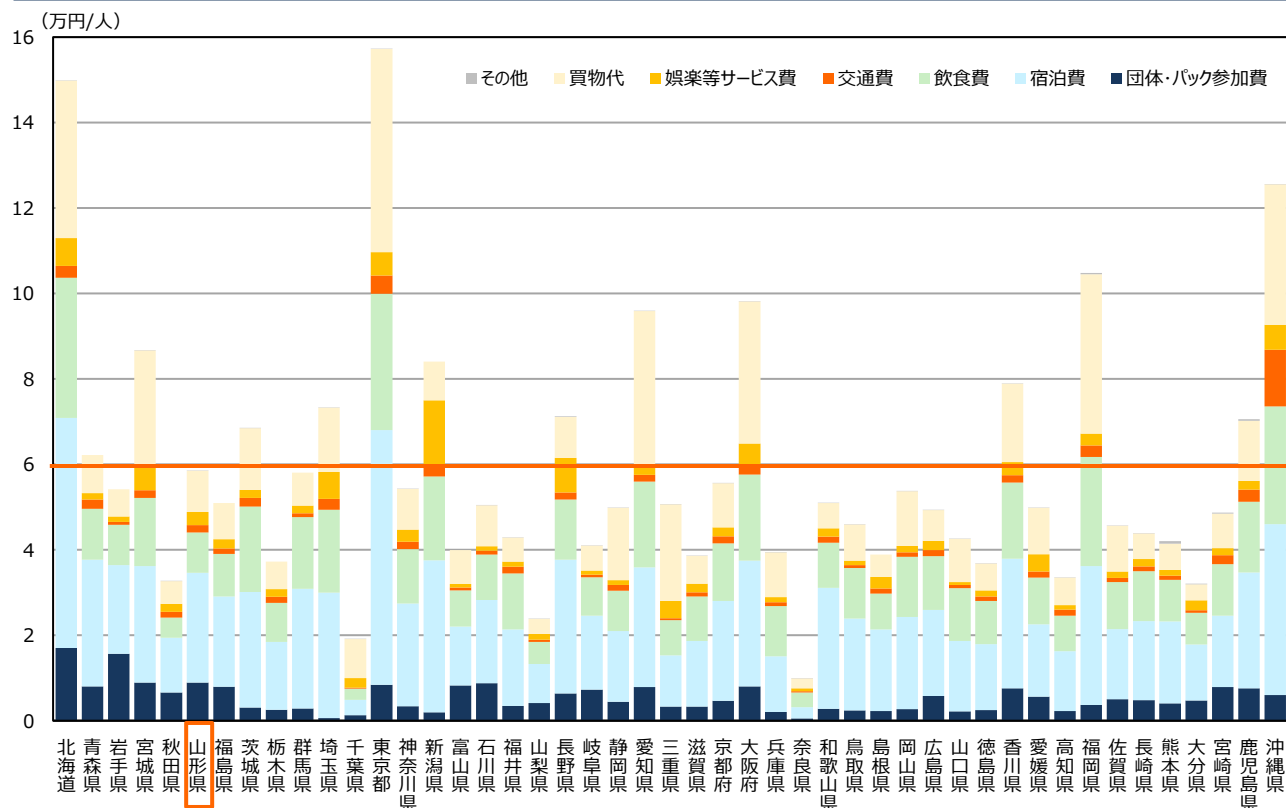
(※)第2次速報値（2025年1月～2026年2月まで）

国籍不詳は得られないため、国籍不詳を含めた年計値と一致しない

3-3 インバウンド消費動向調査による山形県での旅行消費

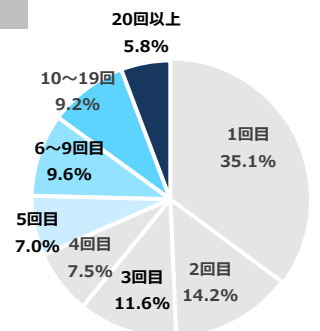
- インバウンドの全国における消費単価をみると、東京都や北海道、沖縄県の消費単価が高く、内訳をみると宿泊費と買物代がけん引していることがわかる。
- 山形県は、消費単価が6万円に近い水準にあり、全国でも上位3割に位置する。一方で、消費単価上位の都道府県と比較すると宿泊費をはじめとして買物代や飲食費が少なくなっている。
- 来訪者を訪日回数別にみると、山形県を訪れるインバウンドは全国と比較して来訪回数が多い傾向にあり、何度も日本へ足を運ぶインバウンドが山形県に関心を持っていることがわかる。

都道府県別インバウンドの費目別観光消費単価（2025年・一人当たり）

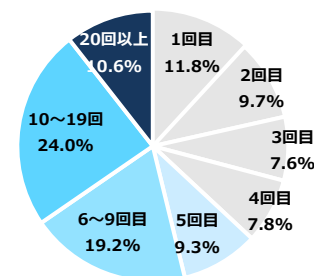


訪日回数別来訪者割合

全国



山形県

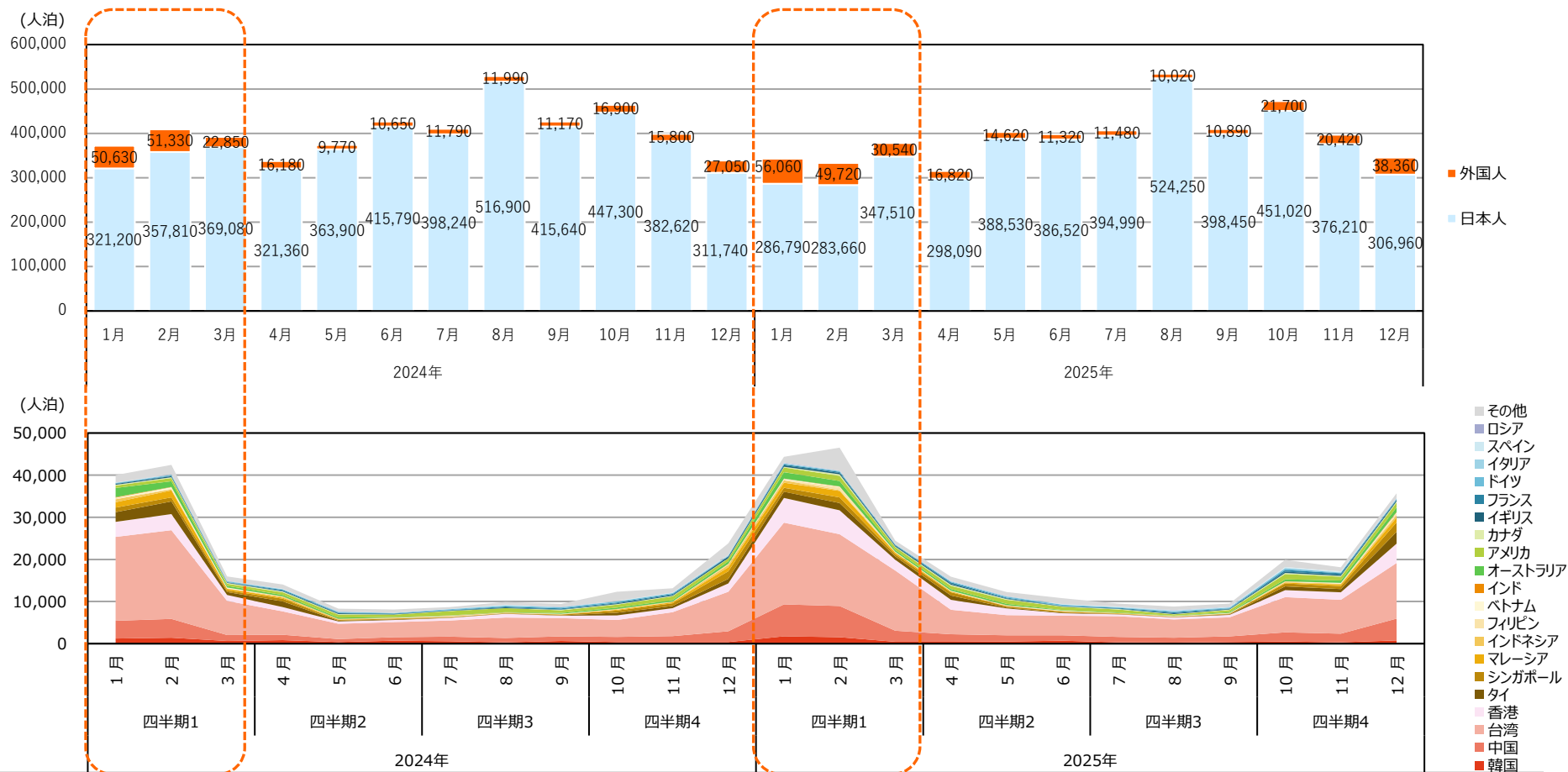


※2025年（暦年）A1全国調査より

3-4 宿泊統計からみた山形県を訪れるインバウンドの特徴

- 山形県の宿泊者は日本人が中心であり、宿泊者数は夏の時期にピークを迎える。
- 一方で台湾を中心とするインバウンドは日本人の宿泊が落ち着く冬の時期に多く訪れている。

山形県の日本人・外国人延べ宿泊者数（上）と国・地域別外国人延べ宿泊者数（下）



第4章 庄内エリアを訪れるインバウンドの人流・国籍分析

4-1 人流・国籍分析におけるツールと前提

- 次ページ以降のインバウンド人流・国籍分析では、Agoopインバウンドデータを活用した。
- 本分析において全てに「来訪者数」と記載しているが、正しくは「推計した来訪者数」であることに注意いただきたい。集計された来訪者数は、一般に採用した分析ツールごとに集計仕様が大きく異なり、値のもつ特徴が異なることも多い。
- 前段の日本人にかかる人流分析とは異なり、庄内エリアにおいて捕捉できるインバウンドのサンプル数が少なかったため、本項目では「年間での集計」として、エリアとしても「鶴岡市」「酒田市」の2市を対象として分析を進めた。

分析ツール

利用サービス	Agoopインバウンドデータ
概要	Azira LCC.（旧社名 Near Intelligence、本社：米国）が保有するグローバル位置情報データをもとに、Agoopにて集計加工したデータ ※個人を特定できないように秘匿化・プライバシー保護対策実施済みのデータのみを提供
特徴	同意を得たユーザーのGPSデータを収集し、スマートフォンの特定のアプリのうち、承諾を得たユーザからGPS位置情報を収集し拡大推計 アプリをインストールしたユーザーから取得しているため、通信キャリアに依存しない
滞在時間	対象エリアに1時間以上滞在したユーザーを捕捉
留意点	中国居住者の位置情報データは、特定の期間、集計エリアにおいて集計できない場合あり）。

分析の前提

(4-2) 来訪者数・国籍分析	(4-3、4-4) 周遊動態分析
・時間、日単位で集計しながら、当該月の来訪者を累積算出 ・データのアウトプット仕様は月ユニーク(※1) ・同意を得たユーザーデータの国籍(Azira社では、推定居住者をベース)に対応し、全国籍のデータを取得。ただし、図表を整理する段階で、20か国（その他を含め21か国）(※2)にマッピングして集計。	・暦月内に着目エリアに滞在し、同暦月内に周遊先に滞在した場合、同時来訪として集計する。暦月内であれば、それぞれの来訪した日が離れていても周遊先として集計する ・集計方式は、月ユニーク。

(※1)月ユニーク：1ヶ月のうち同一人物の来訪回数のカウントは、当該月の来訪回数に関わらず1回までとする

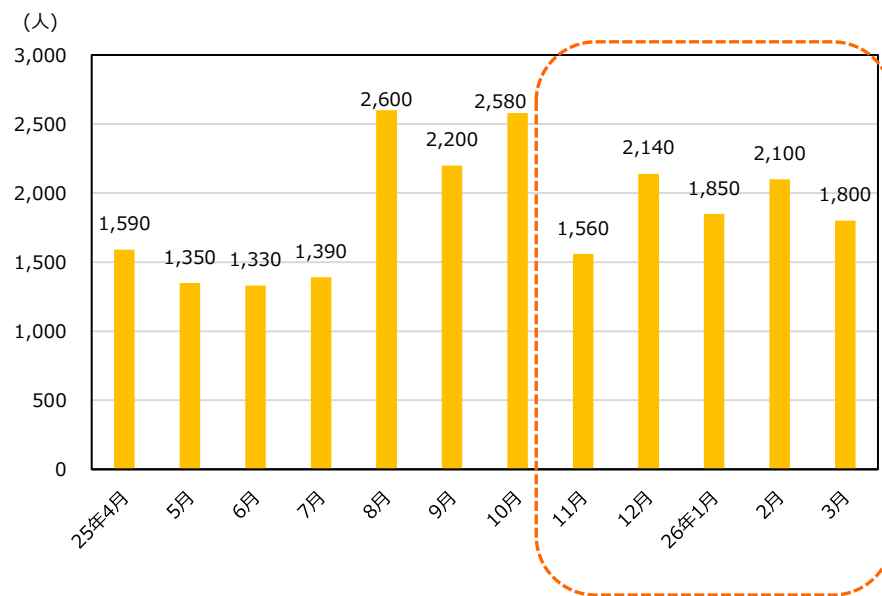
(※2)韓国/中国/台湾/香港/タイ/シンガポール/マレーシア/インドネシア/フィリピン/ベトナム/インド/豪州/米国/カナダ/英国/フランス/ドイツ/イタリア/スペイン/ロシア

4-2 鶴岡市・酒田市への来訪者一月次推移

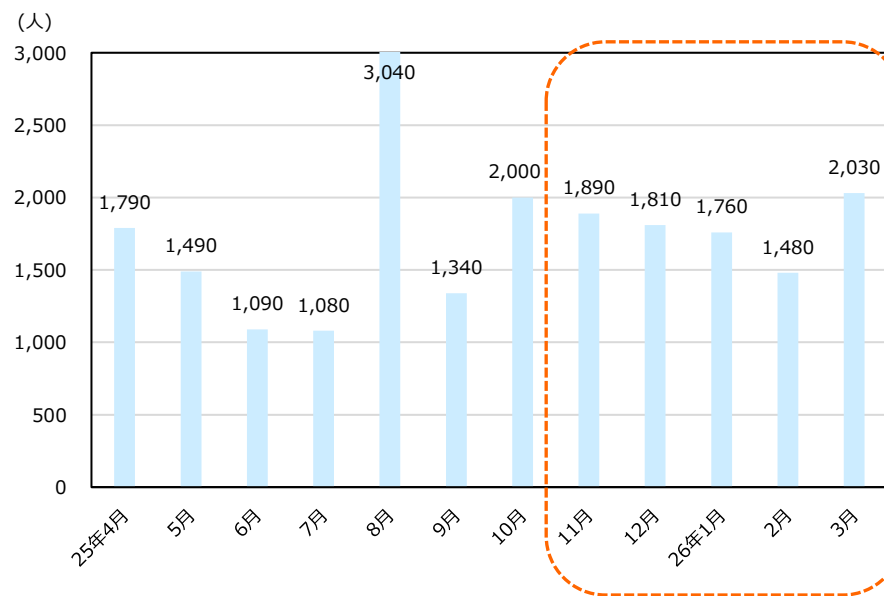
- インバウンド来訪者数は、鶴岡市、酒田市ともに年間で2万人を超える結果となった。
- 両市ともにピークは8月であるが、日本人観光客とは異なり、**冬季においても安定的な来訪者数を維持している。**
- また、前述の宿泊統計では山形県に来訪するインバウンドは夏季に少なく、冬季に多い結果となっていたが、鶴岡市、酒田市では、夏季にピークを付けている点で傾向が異なる。
- 観光客数の絶対値はまだ少ないものの、**冬季に雪のコンテンツが豊富な村山・置賜エリアとの周遊を促進する等インバウンドの誘客を進めることで、閑散期である冬季の活性化が期待できる可能性がある。**

2025年度の月次来訪者数

鶴岡市来訪者数(年間2.3万人)



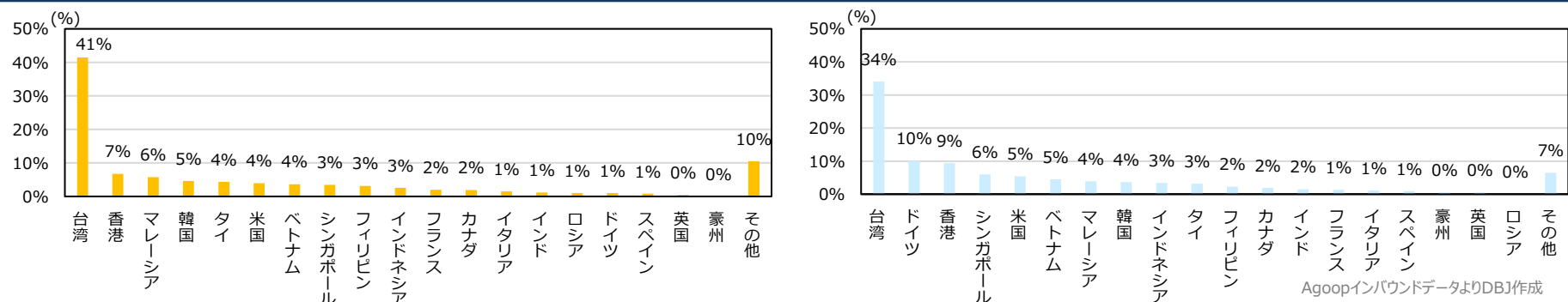
酒田市来訪者数(年間2.1万人)



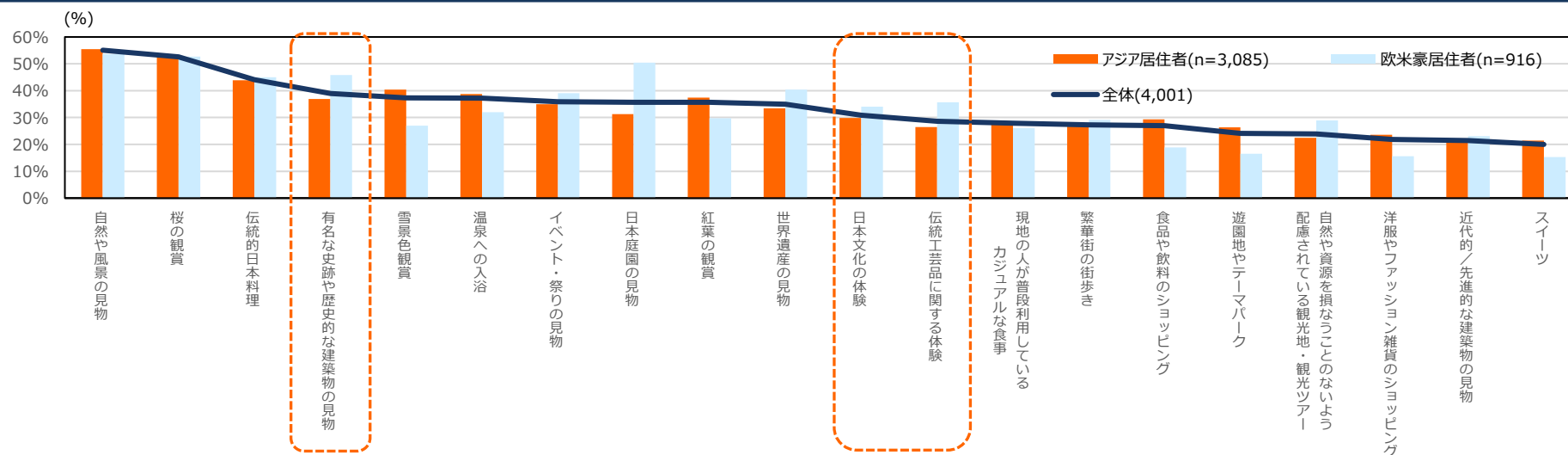
4-2 鶴岡市・酒田市への来訪者－国籍別

- 国籍別の来訪者をみると、山形県全体の傾向と同様台湾からの来訪者が多い。
- また欧米豪からの来訪者も相応にみられる。欧米豪居住者はアジア居住者と比較して訪日旅行者が日本で体験したいこととして「有名な史跡や歴史的な建築物の見物」や「イベント・祭りの見物」等その土地の文化や伝統に触れたい意向が高いことが伺える。庄内エリアは出羽三山の山岳信仰等、精神文化や伝統文化が根付いているなかでは、欧米豪からの来訪者との親和性が高い可能性が示唆される。

2025年度鶴岡市（左）・酒田市（右）の国籍別来訪者



（参考）訪日訪問意向者が日本で体験したいこと－総合上位20項目を抜粋



(参考) 鶴岡市・酒田市 <TripAdvisor> 総合人気観光スポットTOP15

- 「鶴岡市」と「酒田市」について、TripAdvisor上の総合人気上位スポットを整理した。
- 上位スポットでも日本語の口コミが大層を占め、外国語の口コミがほとんど見られない(0%)スポットもある。
- 一方で、旧跡・神社仏閣等は、外国語の口コミが一定数見られるスポットもあり、インバウンドからも人気の観光スポットであることが伺える。

鶴岡市

	スポット	評価	口コミ件数	口コミ 外国語割合	主な口コミの言語 (上位5位まで、言語数が少ないところもあり)
1	羽黒山	4.6	317	19%	英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・タイ語
2	かもすい	4.4	471	7%	英語・フランス語・ドイツ語・中国語(繁)
3	羽黒山五重塔	4.6	236	11%	英語・ドイツ語・オランダ語・中国語(繁) フランス語
4	湯殿山神社	4.6	137	9%	英語・フランス語・ドイツ語・イタリア語 中国語(簡)
5	出羽神社	4.4	83	4%	英語・フランス語・中国語(繁)
6	三神合祭殿	4.6	30	3%	オランダ語
7	弥陀ヶ原湿原	4.4	51	6%	英語
8	旧風間家住宅 丙申堂	4.2	35	9%	英語・フランス語
9	致道博物館	4.0	62	2%	英語
10	鶴岡公園	3.9	101	11%	英語・中国語(繁)・タイ語
11	道の駅あつみ	3.8	62	2%	中国語(繁)
12	赤川花火大会	4.5	15	20%	中国語(簡)・フランス語
13	大日坊	3.9	30	13%	ドイツ語・英語・フランス語・オランダ語
14	鶴岡カトリック教会天主堂	4.1	65	3%	英語
15	鶴岡市観光案内所	4.0	25	16%	英語

酒田市

	スポット	評価	口コミ件数	口コミ 外国語割合	主な口コミ言語 (上位5位まで、言語数が少ないところもあり)
1	山居倉庫	4.0	335	7%	英語・フランス語・中国語(繁)
2	土門拳記念館	4.5	103	10%	英語・フランス語・タイ語
3	相馬樓	4.3	74	24%	英語・フランス語・オランダ語・中国語(繁)
4	本間美術館庭園	4.2	73	8%	英語
5	玉簾の滝	4.4	39	8%	英語
6	日和山公園	3.9	83	10%	英語・フランス語・中国語(繁)
7	酒田観光協会駅案内所	3.9	34	12%	英語・中国語(繁)
8	本間家旧本邸	4.0	76	4%	英語・フランス語
9	海向寺	4.3	36	14%	英語
10	山王くらぶ	4.1	30	7%	英語・フランス語
11	酒田花火ショー	4.3	7	14%	中国語(繁)
12	旧燈屋	3.8	41	5%	英語
13	酒田市美術館	4.2	19	0%	該当なし
14	眺海の森天体観測館 コスモス童夢	3.7	9	0%	該当なし
15	庄内空港緩衝緑地	4.2	9	0%	該当なし

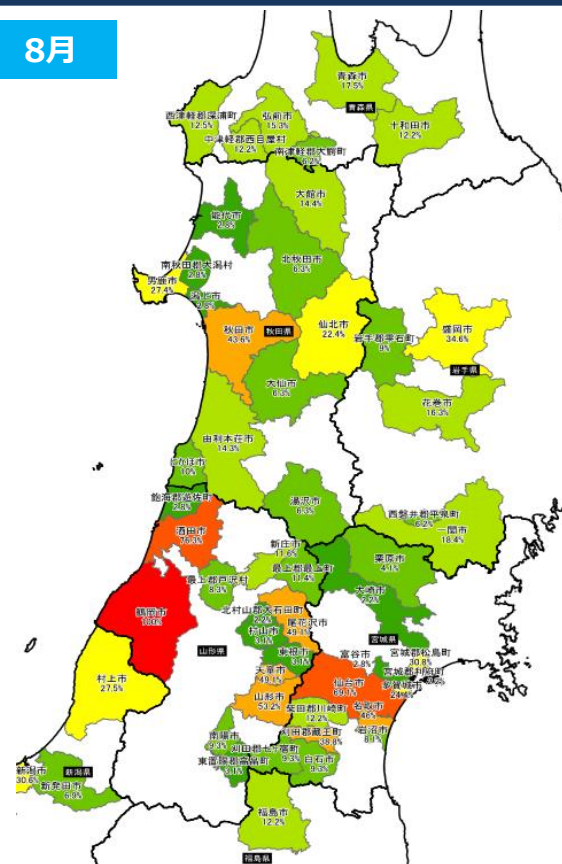
※TripAdvisor上の口コミに基づくもので、実際の来訪者構成を直接示すものではない。

4-3 鶴岡市来訪者の他訪問先

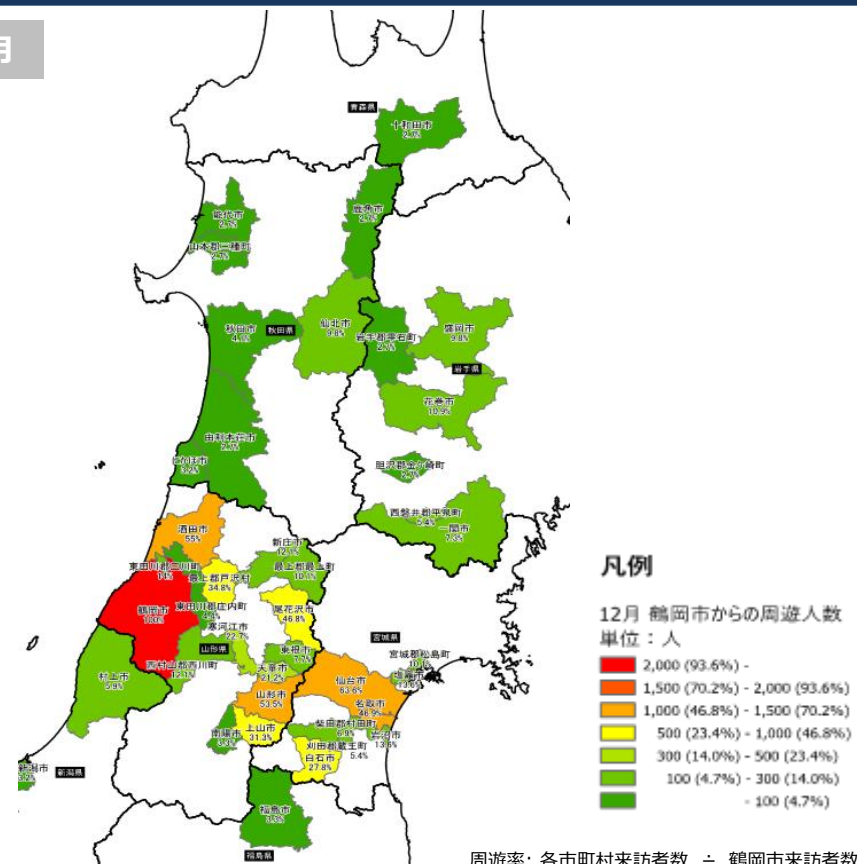
- 鶴岡市に8月、12月に来訪したインバウンドは、ともに近隣の酒田市や、仙台空港がある仙台市、山形市との周遊率が高い。
- 8月は12月に比べ広域で周遊していることが伺え、山形市の「山形花笠まつり」、秋田市の「秋田竿燈まつり」等、お祭り開催地の市町村との周遊がみられる。
- 12月は主に山形県内で周遊されており、8月と比べこたつ舟が楽しめる戸沢村や温泉地である尾花沢市、上山市の周遊率が上昇している。

鶴岡市に来訪したインバウンドの他訪問先

8月



12月



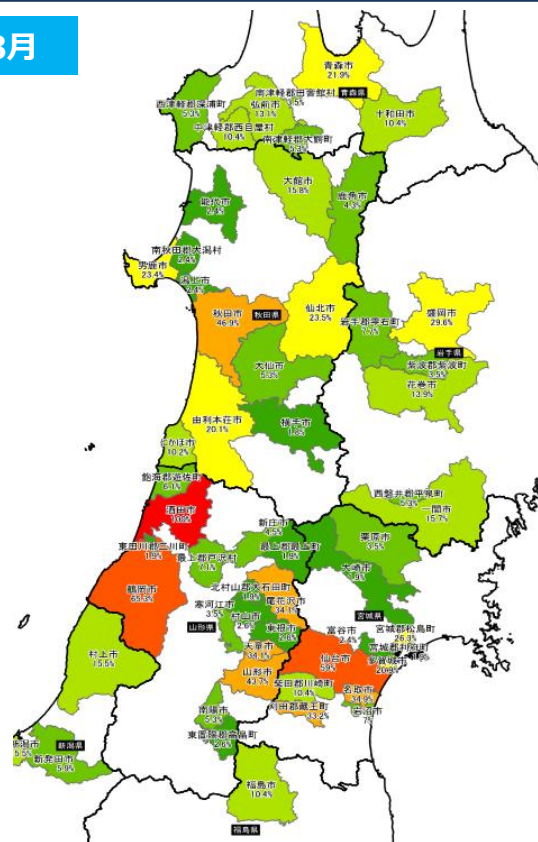
周遊率：各市町村来訪者数 ÷ 鶴岡市来訪者数

4-4 酒田市来訪者の他訪問先

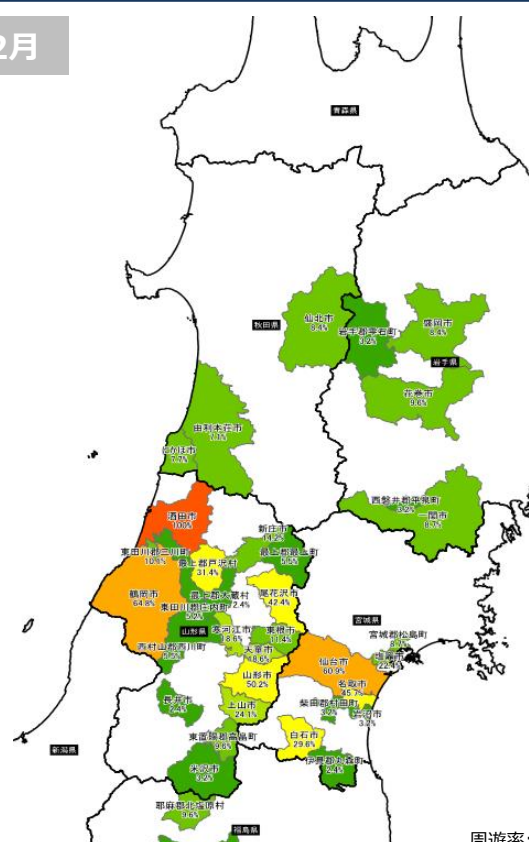
- 酒田市に8月、12月に来訪したインバウンドは、ともに鶴岡市や仙台市との周遊率が高い結果となった。
- 8月は鶴岡市と同様広域で周遊されている。また酒田港は多くのクルーズ船の寄港地となっており、同じく寄港地として有名な青森港を有する青森市との周遊率が高くなっている。
- 12月は鶴岡市と比較して、より県内の市町村との周遊率が高い。また豪雪地帯である米沢市や長井市との周遊もみられ、インバウンドの雪への関心の高さがうかがえる。

酒田市に来訪したインバウンドの他訪問先

8月



12月



周遊率：各市町村来訪者数 ÷ 酒田市来訪者数

小まとめ～庄内エリアを訪れるインバウンドの人流・国籍分析

<インバウンド観光の特徴 ～冬季需要と高付加価値観光に可能性～>

- 庄内エリアを訪れるインバウンドは、絶対数ではなお限定的であるものの、鶴岡市・酒田市とも年間2万人を超える来訪が確認されており、日本人観光客と比較すると冬季においても安定した需要を維持している。
- 国籍別では台湾が最大の市場であり、香港や東南アジア諸国に加え、米国・ドイツなど欧米豪からの来訪も一定程度存在している。また、鶴岡市・酒田市来訪者の他訪問先分析では、鶴岡市・酒田市ともに仙台市や山形市との結びつきが強く、庄内エリア単独ではなく、仙台市や山形市を含む広域周遊の一環として来訪している実態が確認された。
- 冬季には尾花沢市や上山市などの温泉地、さらには豪雪地域との周遊も見られ、海外旅行者の雪や温泉への関心の高さがうかがえる。一方で、庄内エリアはTripAdvisor等で高い評価を受ける羽黒山、羽黒山五重塔、湯殿山神社などを有しているにもかかわらず、**国際的な認知度や受入環境は発展途上**にある。
- 今後は、台湾など東アジア市場向けには雪・温泉・食を軸とした誘客を進めるとともに、欧米豪市場向けには出羽三山の山岳信仰や修験文化、北前船文化など庄内固有の精神文化を活用した高付加価値観光を推進し、**量と質の両面**から誘客を図ることが重要である。

第5章 終わりに

まとめ

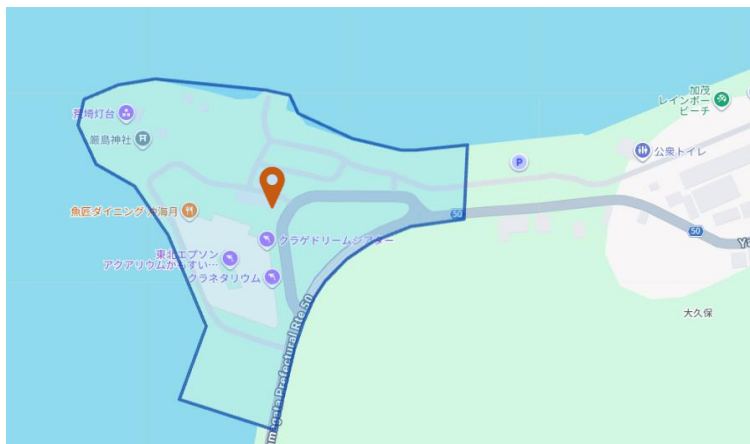
<ビッグデータ分析から見た庄内観光の課題と今後の方向性>

- 本調査を通じて得られた最も重要な示唆は、観光客の庄内エリアへの来訪は**庄内単独で完結するものではなく、仙台市、山形市、銀山温泉、天童温泉等を含む広域的な周遊行動の中で行われている点**である。
- 羽黒山五重塔来訪者の周遊分析では、かもすいや山居倉庫など庄内エリア内の観光地に加え、月山花笠ライン、山寺、天童温泉、銀山温泉、仙台市との結び付きが確認された。観光客は行政区域を意識することなく魅力ある観光資源を組み合わせる旅行しており、庄内観光を考える上でも広域的な視点が不可欠である。一方、この結果は庄内観光の構造的課題も示している。
- かもすいや羽黒山五重塔は県外からの誘客力を有する観光資源であるにもかかわらず、鶴岡市来訪者の多くは日帰り利用であり、羽黒山五重塔来訪者の周遊実態を見ても、庄内エリア内の温泉地との結び付きは限定的である。**庄内は「観光客を呼ぶ力」は有しているものの、その後の宿泊や域内周遊、消費へ十分に繋がられていない可能性**がある。そのため観光客数の増加のみならず、既に来訪している観光客の宿泊率向上や滞在時間及び域内消費をいかに伸ばすかが今後の中心課題であると考えられる。
- また、今後は個別施設ごとの誘客ではなく、広域周遊を前提とした戦略を強化する必要があり、**①広域周遊客の庄内エリア内への更なる取り込み強化、②庄内エリアにおける宿泊誘導及び滞在時間・消費額の拡大**、をどのように実現するかが重要な視点となる。
- 具体的には、羽黒山五重塔やかもすいを庄内観光のゲートウェイと位置付け、その前後に食、温泉、酒田・鶴岡の歴史文化、宿坊体験等を組み合わせることで、「庄内で一泊する理由」を明確化していくことが重要である。本分析でも鶴岡駅周辺や市内飲食店への立寄りが確認されており、庄内の食文化は滞在時間や地域内消費拡大の有力な切り口として活用できる可能性がある。
- また、インバウンドについては台湾を中心に冬季も一定の需要が確認されており、日本人観光客が減少する閑散期を補完する存在として期待される。加えて、外国語口コミの分析からは、出羽三山や羽黒山など精神文化資源への関心も確認された。短期的には雪・温泉・食を活用した東アジア市場への誘客を進めつつ、中長期的には修験道や山岳信仰、北前船文化といった庄内固有の文化資源を磨き上げ、高付加価値型観光を育成することが重要である。
- 本調査から**庄内エリアの観光における課題は、「既に来訪している観光客や広域周遊客をいかに地域内で滞在・宿泊・消費につなげるか」**であることが示唆された。**今後は個別観光地ごとの誘客施策に加え、広域周遊を前提とした観光商品設計と滞在拠点化を進めることで、観光消費の域内定着を図ることが重要である。また、あわせて宿泊・体験コンテンツ・地域交通等を担う事業者間の連携を進めるとともに、新たな観光サービスの創出や事業化を後押ししていくことが求められる。**

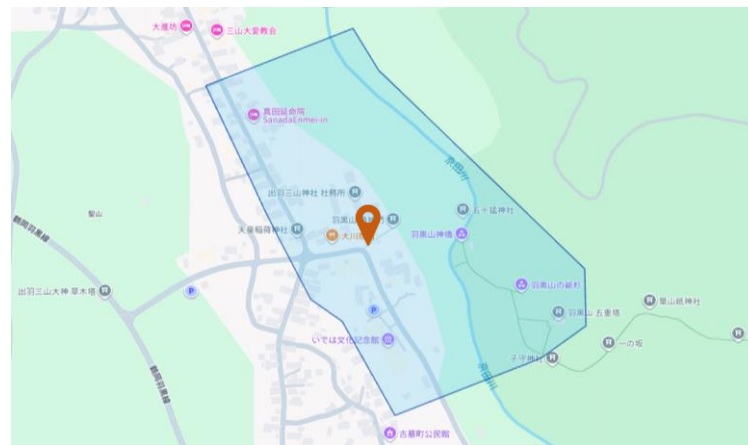
Appendix

主要観光地のエリア定義（1/3）

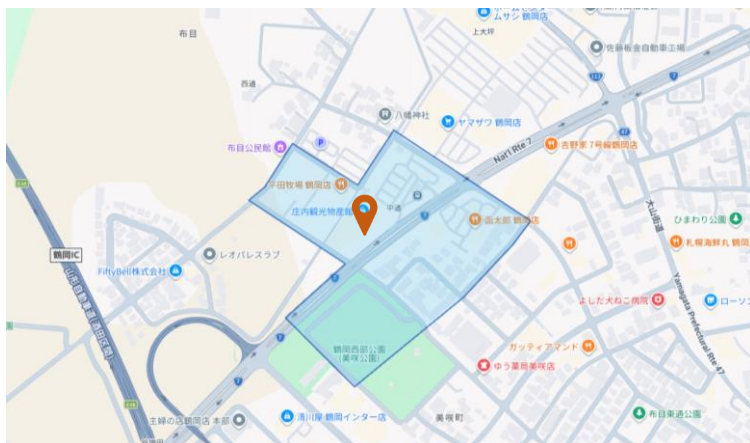
かもすい



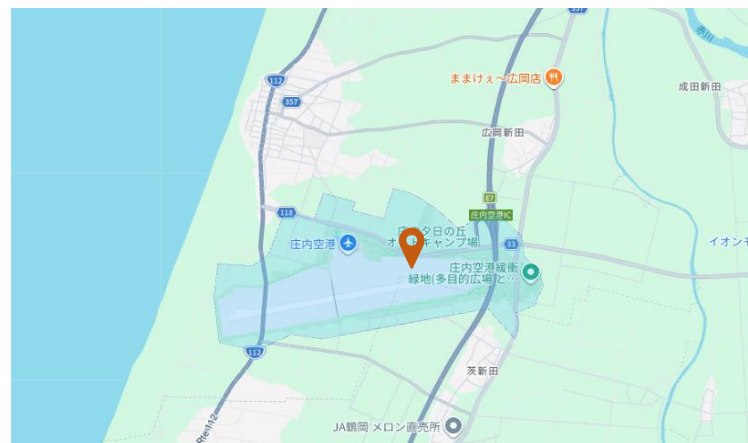
羽黒山五重塔



庄内観光物産館

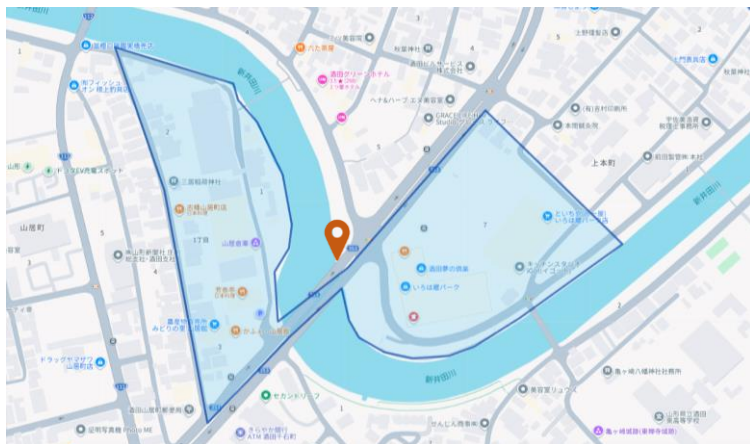


庄内空港

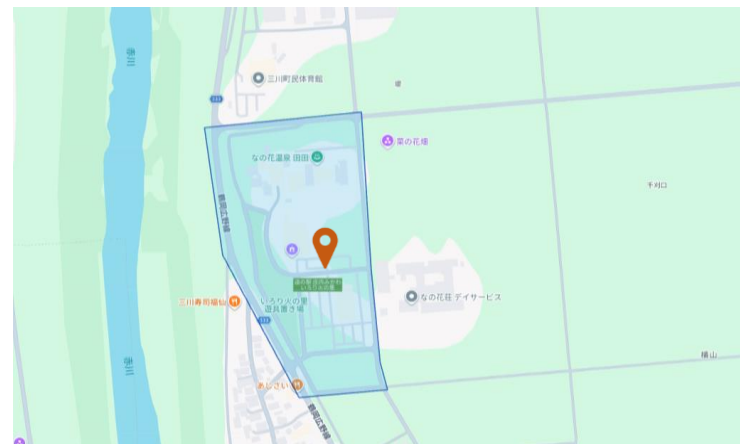


主要観光地のエリア定義（2/3）

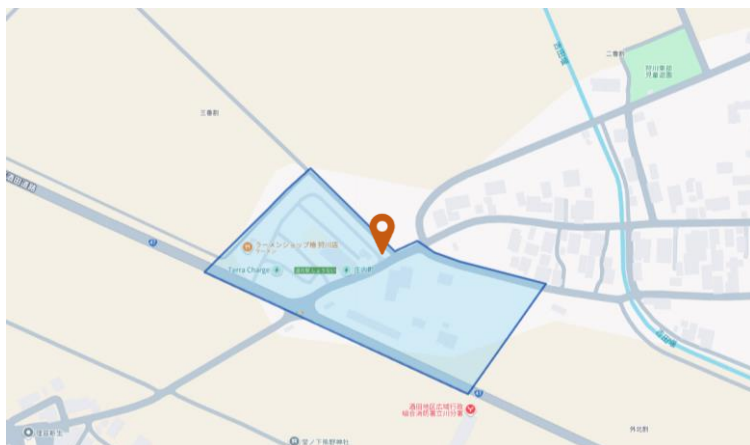
山居倉庫及びいろは蔵パーク



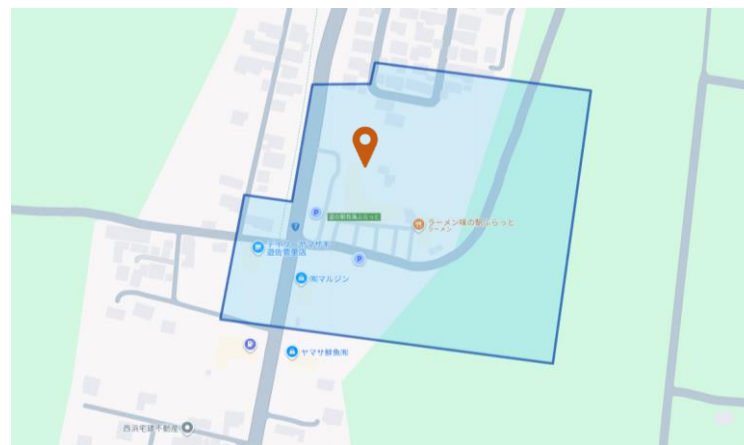
道の駅庄内みかわ



道の駅しょうない

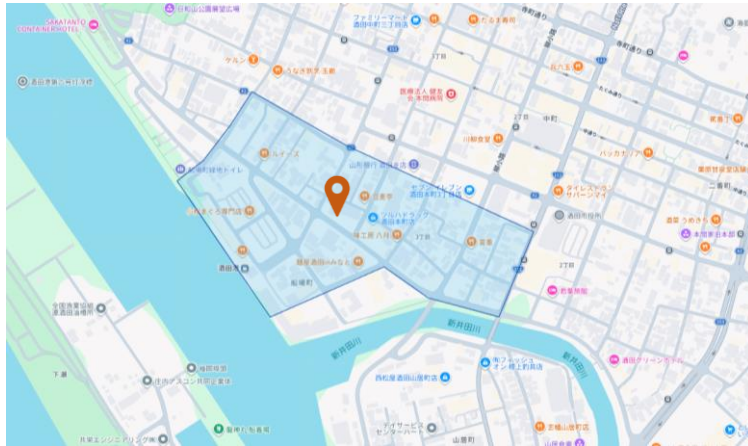


道の駅鳥海ふらっと

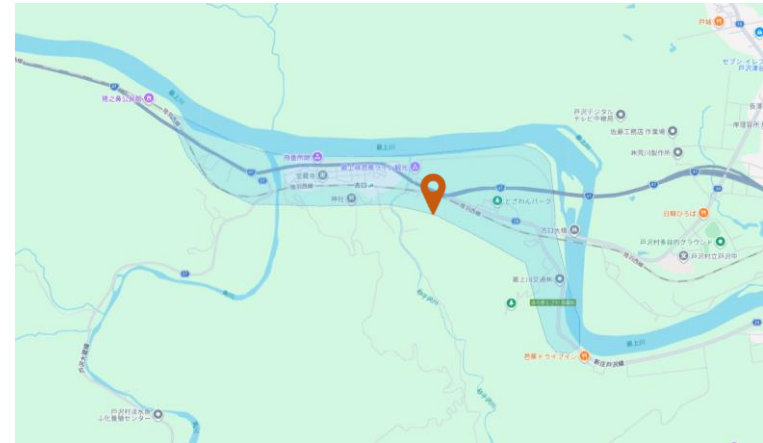


主要観光地のエリア定義（3/3）

さかた海鮮市場



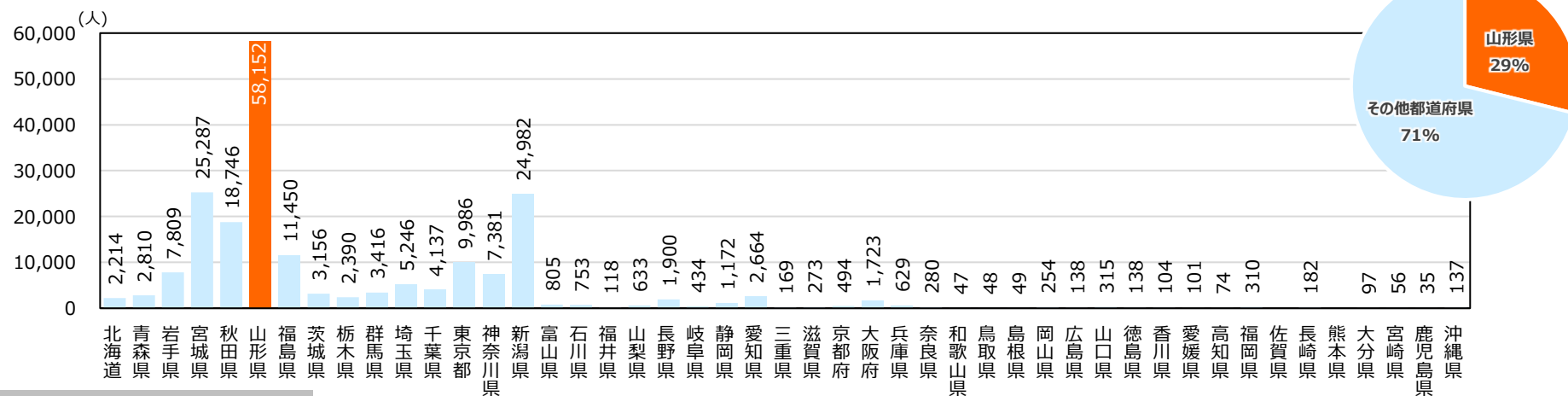
最上峡芭蕉ライン観光



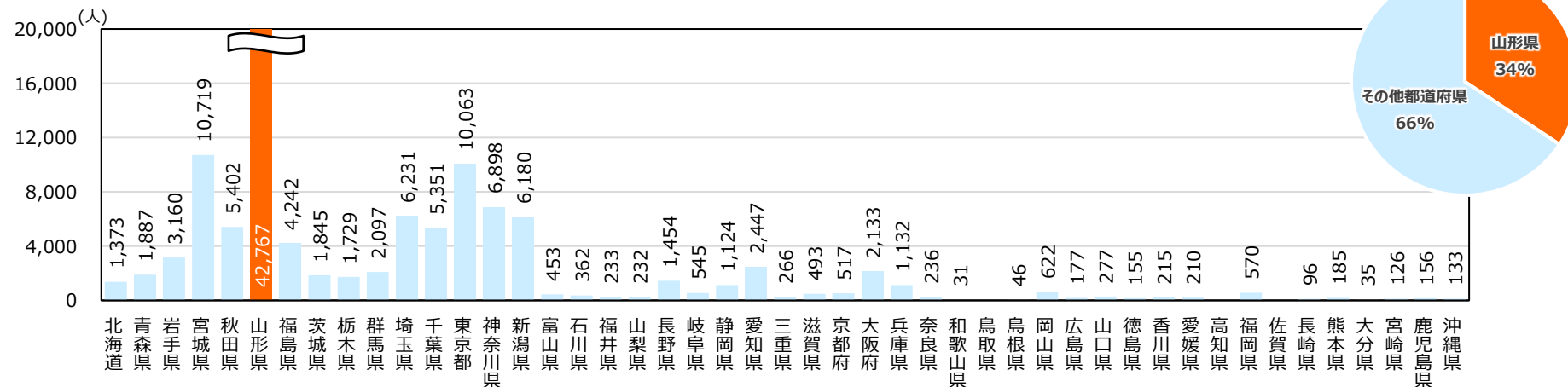
主要観光地点来訪者の居住地詳細（1/5）

■ 2025年度における主要観光地点来訪者の居住地を整理

かもすい



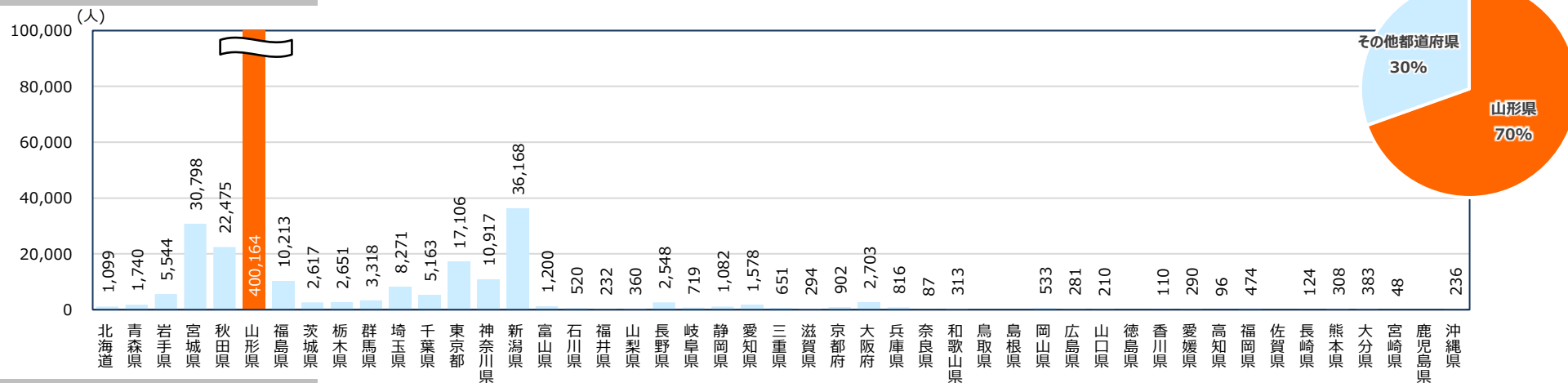
羽黒山五重塔



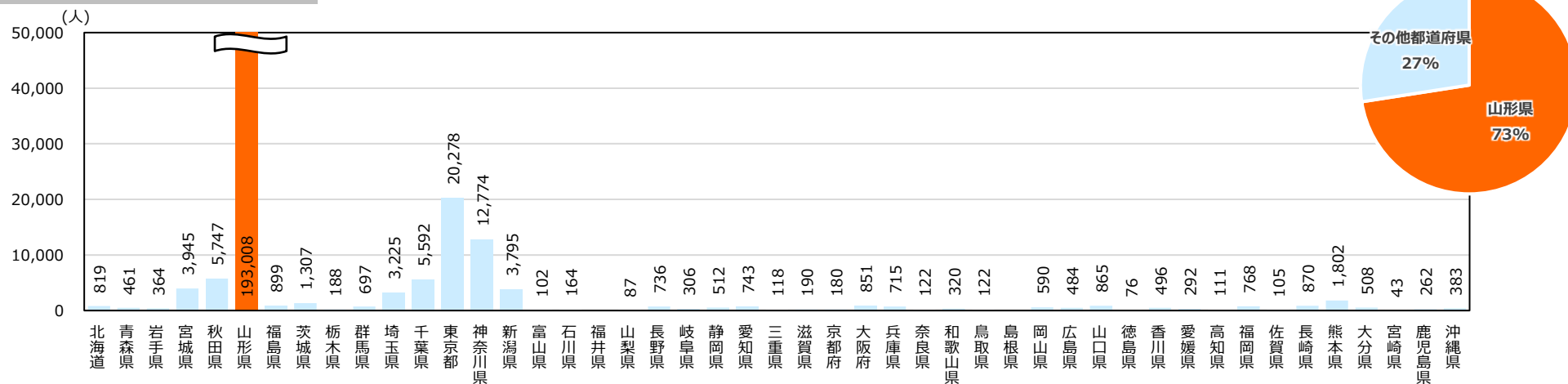
主要観光地点来訪者の居住地詳細（2/5）

■ 2025年度における主要観光地点来訪者の居住地を整理。

庄内観光物産館



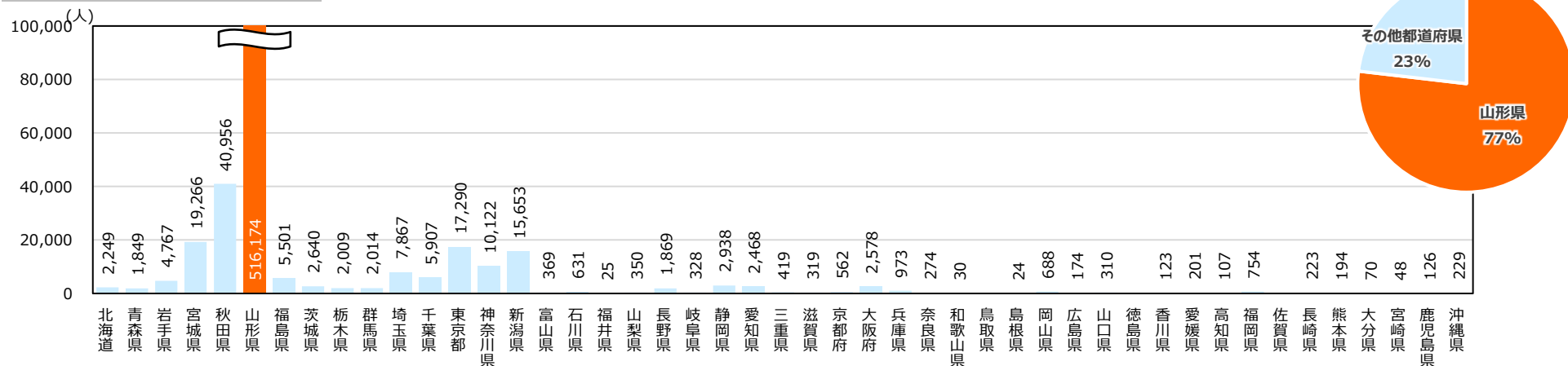
庄内空港



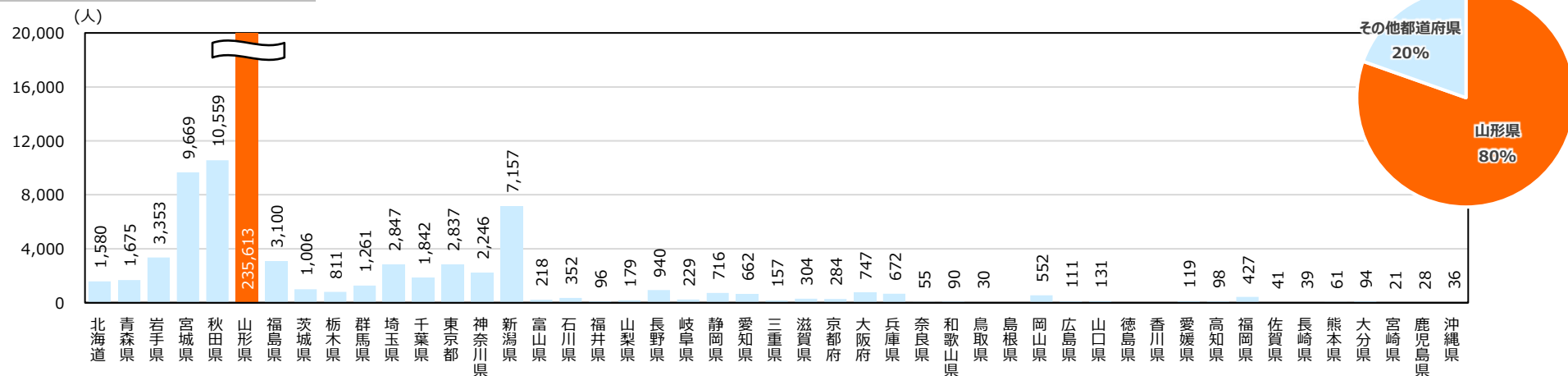
主要観光地点来訪者の居住地詳細（3/5）

■ 2025年度における主要観光地点来訪者の居住地を整理。

山居倉庫及びいろは蔵パーク



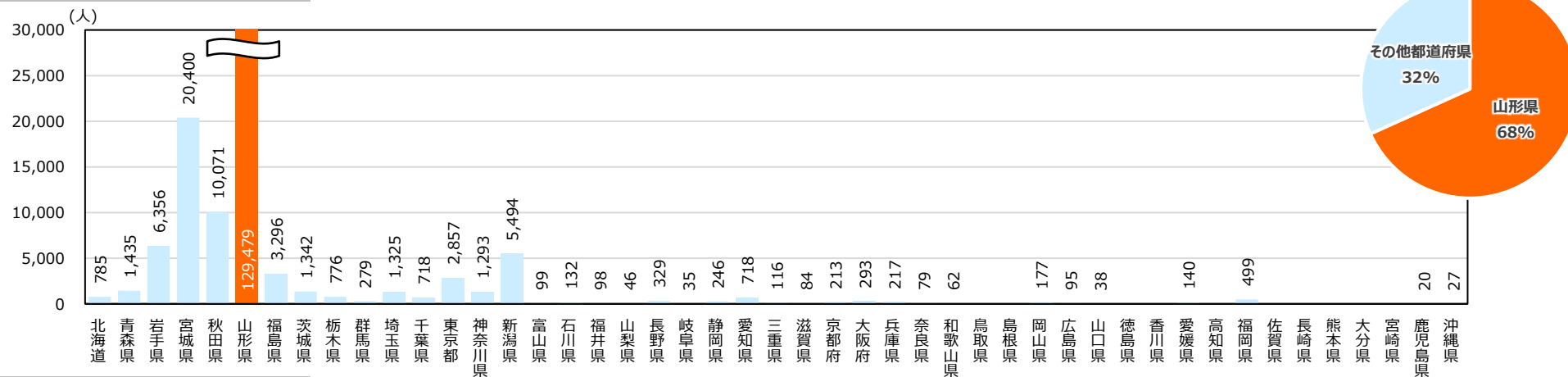
道の駅庄内みかわ



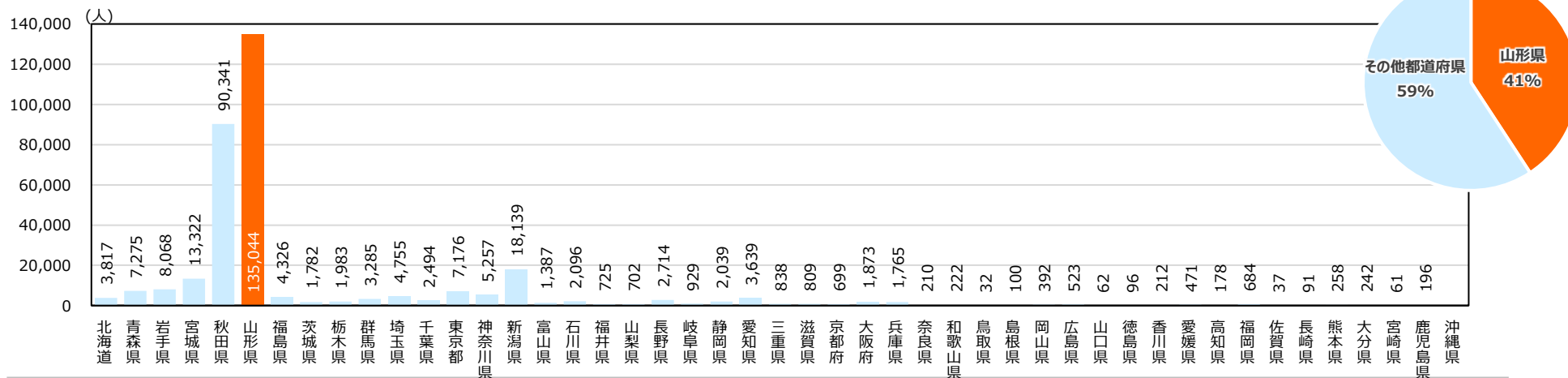
主要観光地点来訪者の居住地詳細（4/5）

■ 2025年度における主要観光地点来訪者の居住地を整理。

道の駅しょうない



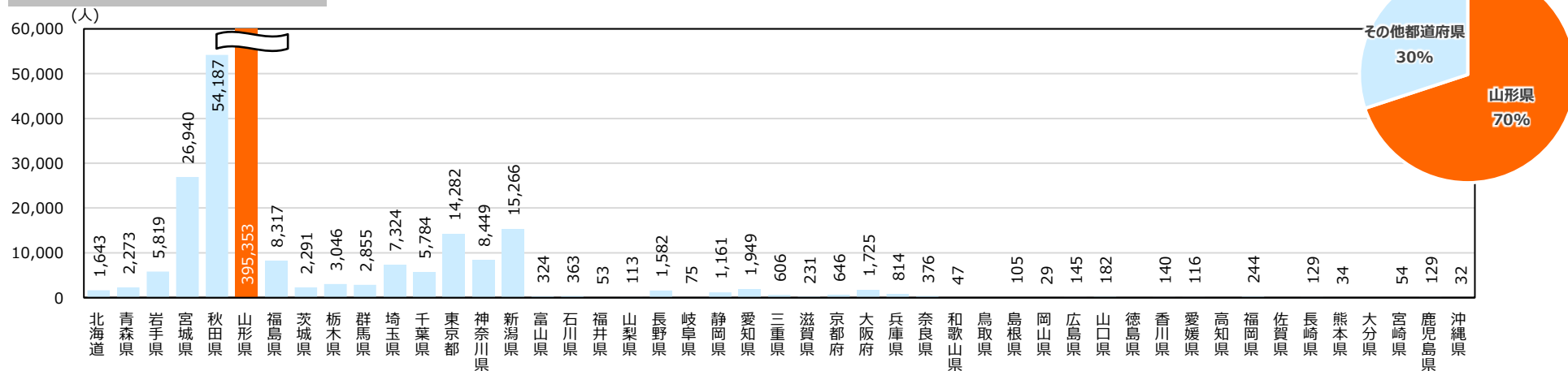
道の駅鳥海ふらっと



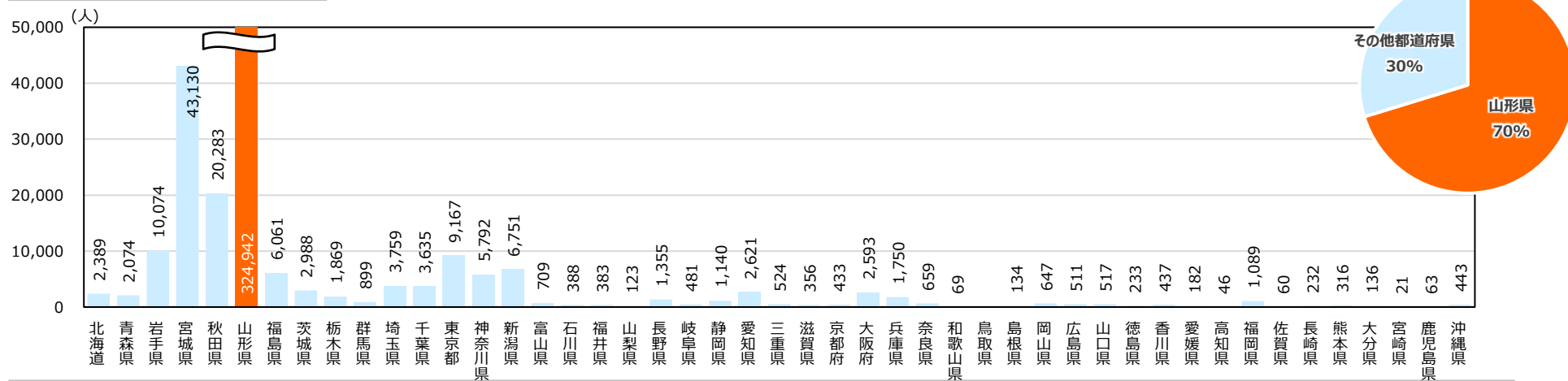
主要観光地点来訪者の居住地詳細（5/5）

■ 2025年度における主要観光地点来訪者の居住地を整理。

さかた海鮮市場



最上峡芭蕉ライン観光



＜使用した位置情報データについて＞

「KDDI Location Analyzer（日本人版）」

- 本分析では、GPS位置情報ビッグデータ分析ツールとして、技研商事インターナショナル株式会社の「KDDI Location Analyzer」（以下、KLA）を使用している。
- KLAでは、KDDIがauスマートフォンユーザー同意のもとで取得し、誰の情報であるかわからない形式に加工した位置情報データおよび属性情報（性別・年齢層等）を活用している。属性情報は国勢調査等を基に拡大推計処理を実施している。

著作権（C） Development Bank of Japan Inc. 2026

当資料は、株式会社日本政策投資銀行（DBJ）により作成されたものです。

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引などを勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願いいたします。

本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要です。当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず『出所：日本政策投資銀行』と明記してください。